新女界

主幹 海老名彈正

主筆 安井哲子

要目

口繪（河畔の朝）

綠蔭清話 海老名彈正

最も樂しき夏期休業 安井哲子

現代の婦人問題 法學博士 浮田和民

うるさい子供 文學士 倉橋惣三

星（小說） 藤なみ子

夏期休業と女學生 女子大學學監 麻生正藏

伯父さん（小說） 平山訓子

良心の醒覺 海老名彈正

夏期號

第壹卷第四號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第壹卷第四號

目次

◉口繪（河畔の朝）　アレキサンドル・ラペン筆
◉最も樂しき夏期の休業　安井哲子

●思想

◉現代の婦人問題　法學博士　浮田和民
◉夏期休業と女學生　女子大學々監　麻生正藏
◉うるさい子供　文學士　倉橋惣三
◉星（小說）　藤なみ子
◉詩二篇　澱橋
◉如何なる童話が最も歡迎せらるゝか　石野爲之助
◉伯父さん（小說）　平山訓子

●講壇

◉良心の覺醒　海老名彈正
◉綠蔭清話　仝上

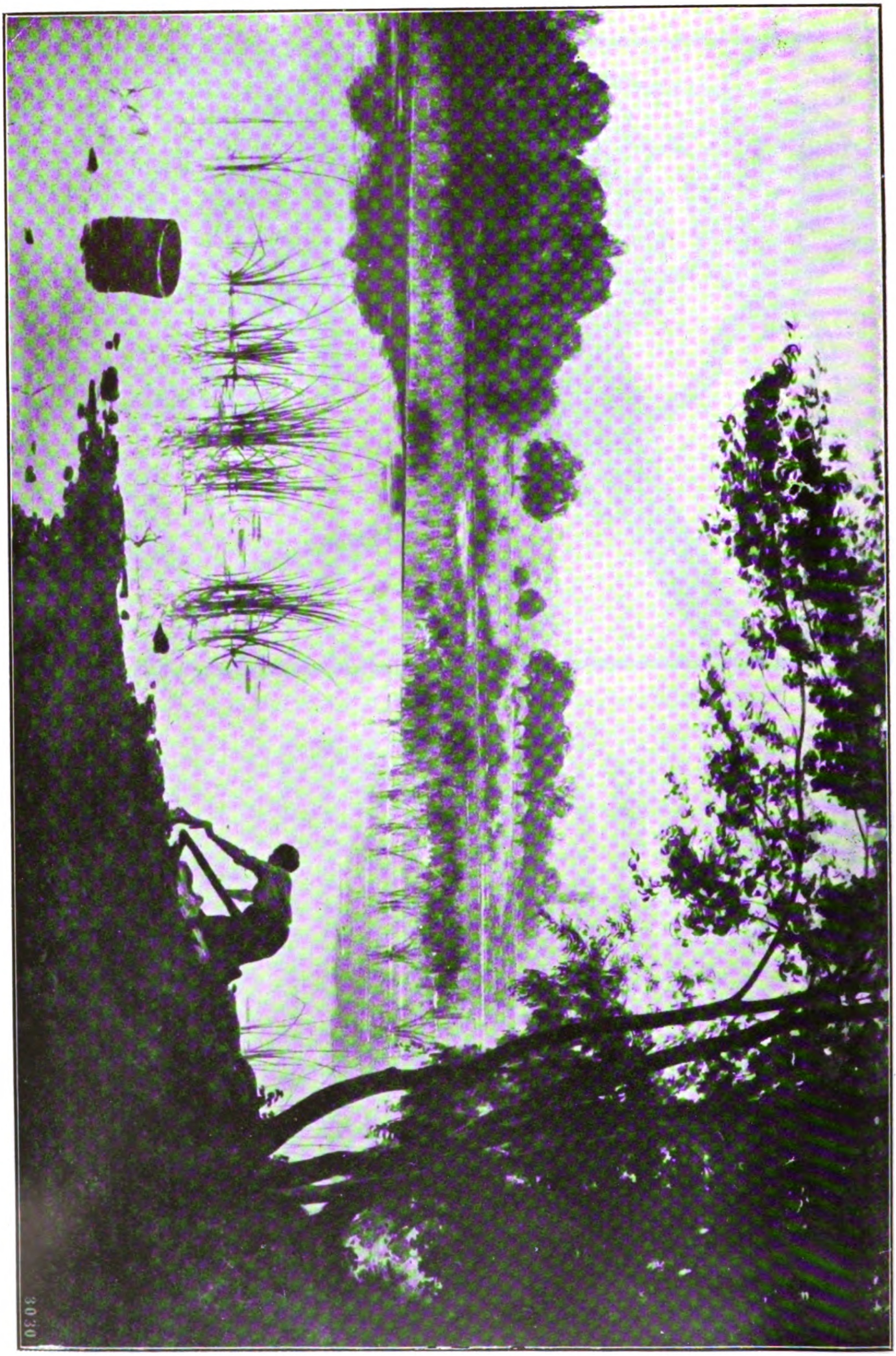
●雜錄

◉今年の夏　海老名みや子・元良よね子
◉海水浴に就て　醫學士　金子魁一
◉病友に與ふる書　小日向生
◉彙報●編輯だより

香油　大瓶　卅五錢　中瓶　廿五錢　小瓶　十七錢
白粉　大瓶　卅五錢　中瓶　二十錢　水製　廿五錢

千代田香油と白粉とは
廿世紀式の新香料を
配合して調製せる
ものなれば、夙に淑女
令孃間に愛用せられ
高評盛なり

東京馬喰町
山岸三之助
電話浪花三七九三



Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

最も樂しき夏期休業

安井哲

愈夏期休業も近づきました。學生方は期末試驗の準備に苦みながら、次第に近づきつゝある長休を指折り數へ、待ちに待つて居られるでありませう。先生方も亦一學期間熱心に働かれた疲れを暫く休め樣と、生徒にも劣らず樂みに待つて居らるゝ事であらうと想像致します。何故吾々はこんなに暑中休が樂しいので御座りませうか。それは氣候が暑くて働くのに苦痛であるといふばかりでなく、活潑な心身は變化を喜ぶ傾があるからであります。そこで其變化には色々の種類がありますが、今其一つか二つかを擧げて見ませう。

一、活動と休息

子供でも大人でも元氣の盛んな者は必變化を喜びます。例へば一學期間熱心に勉强した學生は、適當の時期間心神を休ませて、再努力奮勵する潜勢力を貯へ樣とする者で御座います。然るに平生から怠惰で、何事も半分丈力を入れて爲て居

る人であるならば、勉強家程には休暇も樂みでないかも知れません。假令怠惰の點から職業を休むといふ事を喜ぶにしても、暫く經てば其怠惰に厭いて、他の人ほど休が面白くなくなるでありませう。彼多忙な人が朝から晩まで働いても尚積んだ用事を爲し經へず「あゝ實に苦しい」と心密かに感じながら、奮勵して終に其れを果した後に、一日田舍にでも行つて全く精神を休めた時の樂しさは、實に非常な者で御座いませう。又登山者が未明から日沒まで、殆休む暇もなく歩き續けて、身體は疲れ草臥れた足を引きづりつゝ、やうやくホテルに戻つて來て、入浴をすませ、衣服を着換へ、「う、休まあ」と靜に食卓に坐いた時の愉快は幾何位で御座いませう。之れを實に精神や身體を用ひられる丈十分用ひて、爲すべき事を爲し終り、行くべき所まで行つて來て、心に十分の滿足を感じ、身體に健康な疲勞を覺ねて居たのを、休息に依つて恢復しましたから、此の如くに非常なる愉快を感ずるのであります。其故に眞に夏休が嬉しいと感ずる方は、今迄全心全力を捧げた、學藝なり職業なりに從事せられた方で、心の滿足と休息に對する自然の慾望との合併した結果であります。

二、仕事の變化

心身を勞動した後には、必しも何事をもせずに休息して居るには限りません。何か仕事を變へれば可い場合があります。

例へば精神を非常に用ひた後には、庭の草取りでもするとか、運動を十分爲した後には、靜に讀書でもするとかいふ樣に、心身に一種の變化を與へるのは實に愉快で、且又休息を得る方法で御座います。時間を巧に用ひる人は、種々の仕事を能く組み合はせて、多くの仕事を致します。私の友人に元氣の非常に盛んな老婦人がありますが、多くの仕事を敏捷に爲して決して疲れを感じません。そこで其仕方を觀察して見ますと、二三時間熱心に机に向つて何か用事を爲し、疲れてくれば、三四十分間綴物などを初め、或は買物の爲めに外出し、歸つて來れば再重要の仕事に取りかゝるといふ樣に、其變化の敏捷で、仕事の分量の多いには實に驚かざるを得ません。此方の主義は心力や體力が活潑に働く間に一生懸命仕事をし、少し疲れを感ずると直に他の仕事に轉じ、心身に休息を與へてから、再初の仕事に復へるといふのであります。其故に此方の三十分の仕事は、のろ〳〵と働いて居る人の一時間位の仕事の分量に相當します。一年三百六十五日間に爲し遂ぐる差は如何に大きいか分りません。

三、場處の變化

場處の變化も亦愉快を與へる原因であります。例ば都會か

ら田舍に行き、田舍から都會に來る樣に、又は閑靜な市外から、電車の音の喧ましい市内に出て來るといふ樣に、場所を變化する事も亦元氣の恢復に必要な條件であります。

四、境遇の變化

場處の變化は自然境遇にも變化を與へますが、單に目に觸るゝ外界の變化のみでなく、交る所の人々、接する所の風俗の差異等も亦非常に心を樂しましむる者であります。例へば學校で語り倦きた試驗の話の代りに、農婦と共に胡瓜や茄子の話をしたり、朋友と唱つた唱歌の代りに、子守娘の曲節おもしろく唱ふ田舍歌などは、都會生活のみ續けて居た者には、云ふに云はれぬ愉快を感ずる者であります。かゝる變化が心身に及ぼす影響は實に大きい者でありますから、寄宿舍住居をして居らるゝ方などは、久しぶりに歸省されて、心の隔てぬ御兩親や御兄弟方と睦しく語り合ひ、日々の課業に追はれて、自然に冷れた愛情を燃やし、心からの慰安を受けつ與へつするのは、精神修養上に利益する事が多いで御座りませう。

右に擧げた樣な理由に依つて、我々は夏休が樂しいのであります。それは獨學生や教師のみでなく、奥樣でも母親でも、皆樂みに待つて居るであります。何故ならば殆朝晩にのみ顏を見合はす位多忙な夫が、暫くの休暇を得て、久しぶりに一家團欒の樂みを十分に盡す事が出來ますし、或は又久しく逢はなかつた娘が、身丈も大層延び、學業も大に進んで、都から遙々と歸つて來るのを待つ母親の樂しみもありませう。かく來る人も、迎へる人も、待つ人も、待たるゝ人も、皆變化に對する樂しい希望を抱いて居るのであります。嗚呼此嬉しい豫期も程なく來るであります。來たらば何を爲さうとされますか、如何なる變化を樂しまうとなされますか。

歐米人は概して旅行が好きで、子供の時から兩親と内地は勿論、隣國に旅行して、見聞を廣めたり又は外國語の實習を致します。勿論親に其程の資力のない人、親の興味の狹い人は、かゝる慰みは得られませんが、それでも社會が色々の計畫を設けて、費用が少くて旅行も出來、又其旅行を有益にする方法が出來て居ます、旅行に依つて居る利益は、茲に改めて申すまでもありませんが、見聞を増し、未知の人異郷の人に對する同情心を養ひ、興味の範圍を廣めます。

私共婦人の興味は誠に狹く限られて居り、見界も亦狹くありますから、異つた境遇に在る人に對して十分同情を與ふる事が出來ず、他人の位置に自分を置いて考へる事が出來ぬ樣であります。其故に或は愚痴ぽくなり、冷淡になり又は傲慢になり易う御座います。然るに之れを治す自然の藥は旅行で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あります。即旅行に依つて種々の人々に接し、美くしい天然に接し、時には苦しい思ひもし、悲しい事も經驗して、一方に興味を廣くすると同時に、我家の樂しさを忍び、朋友の愛を慕ひ、他人の親切を感ずるなど溫かな情を養ふ事が出來ます。

其故に旅行の好きな方は、御兩親や御姉妹達と何處かに行つて御覽なさい。山水を賞するも可く、古跡を訪づねるのも面白いで御座りませう。之れの出來ぬ方は裏の畠に野菜を摘んで、臺所に料理の實習をなさるゝのも樂しい變化、又は久しく逢はれなかつた伯父叔母又は幼なき折の友達などを訪ねて、昔語りに樂しき一日を送らるゝのも愉快で御座りませう。

要するに夏休を待たるゝのは、種々の方面の變化を望まれる爲めでありますから、能く其目的を遂する樣に、先疲れた精神や身體の健康を恢復して元氣を養ひ、且又此時期を利用して、淸い山水の美に接して人格修養の資けとし、家庭の和氣に觸れて溫い同情心を養ひ、長き休暇も何時しか果てゝ再新學期の始まるまでには、如何なる困難にも奮鬪努力する事の出來る樣な盛んな元氣を養つて置かれん事を切望致します。

夏期休暇と家庭生活

◉學生諸子の待ちに待たれた夏季休暇も愈々近づきました。何れの學生でも夏は短くて五十日、長ければ七十日近くの休暇が出來ます。冬季春季とりどりの嬉しさもあれど、其の永さに於て、其性質に於いて、夏季休業ほど樂しいものはありますまい。

◉夏は凡て自由を欲する時であります。綠滴るが如き靑葉若葉、息を吐いてる樣な野山、皆是れ自然の生命の自由なる發現でありませんか。學生諸子も夏は學校といふ規則正しい形式から放たれて、暫し自由暢達なる生活が出來るのであります。

◉併し自由といふても決して放埒な不規律な生活を意味するのではありません。規則正しい學校生活寄宿舍生活をのみして居れば、變化極ない活ける人生に接觸する機會が少ない。敎室で習ふ立派な作法も、講堂で聽く眞面目な倫理も、之を實際に施して活用する場合がなければ、眞に體得して自分のものとなすとは出來ません。然に夏季の長い休暇には學生は大抵家庭の人となるのですから、日頃學んだ所を實驗活用して見るには最も善い機會であります。此意味で夏季休暇中の家庭生活は學校で學んだ理論學説の實驗場であります。

◉斯く見れば夏季休暇は決して自由放逸なる生活をなすべき時ではありません。是れは實に學校で學んで居る時と同じく、或は寧ろそれよりもより大切な修養の時であります。樂しい夏季休暇を迎ふるには先づ此の覺悟をして居なければ、休暇の終に於て自ら省みて茫然たる感にうたるゝ許でありませふ。

◉此考は親たる者も有つて居られねばならないのです。可愛い子が久振の休暇で歸つて來たのだからといふて、只遊ばせ從す事もなくしてブラブラ長い月日を暮らさせるとは、單に子を喜び樂むといふ點から見ても淺墓であります。吾子に來客の應對をさせ、或は下婢下男の使ひ方、或は會計炊事の一部を委せて見るなど親たる者にも深い樂があります。此他擧けて見れば種々ありませふ。兎に角母親の方でも夏の間は學校から吾子を引受け敎育する覺悟が必要であると思ひます。

思想

現代の婦人問題

浮田和民

自由なる青年男女

吾國の現代は所謂過渡期でありて、舊時代の道德は權威を失し、之に代るべき新道德の根底未だ定らぬといふ時であるから、新教育を受けつゝある女學生なども倫理的自覺が生ずるに從ひ、何處に歸着すべきかに惑ふて、時には飛んでもないことを仕出かす者が出づるのである。殊に男女の關係の如き古來兩者を隔てた古い障壁が撤せられたけれど、未だ之に代るべき道が開けてないので、青年男女の關係は殆ど自由の境遇に置かれてあると言ふべしである。斯る自由な然も何等の習慣も道も具はつてない境遇に生活する青年男女は、各自警戒反省して此境遇に處して過ない様に心掛けることが大切と思ふ。男女交際は斯く自由の中にある故、苟も志望高き男女ならば此の自由を重んじよく自由に對する責任を感じて行動せねばならぬ。自由は實に人類にとり尊むべき權利である。併し之を與へられ之に處するに當り、苟も責任の感を薄弱にして居つたならば、これより危險なることはない。政宗の利刀も之を克く使ふ人には尊いものであるけれど、之を用ふる能はざる者にとりては却て大害を與ふることがある。たとひ現代には道德の標準とか、男女間交際の道とかが未だ明かに分つて居らないにせよ、教育有る青年男女であるならば自分の明確な良心に省み自分が此貴い自由を有することを自覺し、人格の觀念を強大にして其行動を誤らないことが出來る。斯る精神を以つて公明正大なる行動をもつて交際してゆくことにより、未だ明かならざりし道も開け、交際の禮法や新道德といふものが形を成して來るのである。社會の良い道德は決して外から移入された形式によりてのみ出來るものでなく、多くは立派なる精神を以て行動する生ける人格により保たれ發展されるものである。

現代の社會が斯く男女間に障壁を置かず、危險なる自由の中に彼等があるといふことから、學校の監督者が極端なる干渉をなし女學生が多人數の集會する所、講演會教會等に出席することさへ禁ずることなどは、固より姑息な手段であつて、決して新時代の女子を導く所以ではないと思ふ。既に現代の社會其者が此事に關し自由であるならば、如何に學校などで干渉し壓迫した所が駄目である。斯る方法は學生自身にとりても却て危險なる反動を起し易くするものである。自然の趨勢が既に男女の接近する機會を多くするならば、青年女子を教育する任にあるものは宜しく男子に交はるの道、或は男性を解する機會を與へ、他日保護者も監督者もなくして全く自由なる境遇に入りし時に、狼狽し失敗せぬ樣準備さしておくべきである。尤も已に過渡時代であるから此自由を濫用惡用して失敗する者も出るに違ひないが、是れは時代の犧牲で如何ともなし難い。少數の失敗者に恐れ、保守消極の態度を以て新時代の青年女子を教育するは、寧ろ角を撓めんとして牛を殺す者の愚と同樣であるまいか。今の女子教育家は爰に此點に留意して欲しい。女學生が講演會や教會に出入することは毫も恐るゝことも之を禁止すべき理由もなく、寧ろ奬勵しても良いことである。何となれば教會や講演會に出席する者の中には、男女といはず善良なる者が多い。善良なる男女が、公明なる場所に、同一の目的物たる講演や說教のために集合することは決して禁ずべきではない。若し之を禁する樣な女學生監督者があるならば、斯る人は實に時勢後れの人で、決して新時代の女子教育に當る資格のないものと云はなければならぬ。

女子高等教育の一面

近來高等教育をうけたる女子にして、往々突飛な思想を懷いたり、又社會の耳目を聳動させる樣な行動をなすものが出たり、或は自暴自棄して墮落の淵に陷つてる者もあるといふので、或一部の人々は此の現象を見て早くも、女子高等教育に對して悲觀的嘆聲を洩すものがある。併し是は誠に謂れないことであると思ふ。若し斯の如き婦人の輩出を以て高等教育の結果である、或は教育の無効を云々するならば、それは高等教育其者の惡結果に非ずして、現代の女子教育が不完全であるからである。

固より之は女子教育に限つたことではないが、現代の教育は概して智的教育に偏して居ると思ふ、是れは歐洲諸國の教育が已に斯る缺點を有して居るに氣附かで、之を其儘模倣したからであらふ。吾國の教育事業は公私共に知的一方に傾いて、毫も人格の修養とか道德觀念の養成といふ點に重を置か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ない樣である。敎育者は只知識を注入さへすればよいと思ひ、敎育される學生の方でも知識さへ富ませば充分といふ考で居る樣である。人格に具はれる德は知識以外にも種々あることを忘れて居る。是故に敎育は知育一方に偏して情意の訓練修養の如きは甚だしく缺けて居ると思ふ。敎育の目的は云ふ迄もなく完全圓滿なる人格の養成でなければならぬ。殊に女子敎育の如きは、唯知識を餘計に有つて居る婦人をさへ養成すれば、充分であるとはどうしても申されない。高い見識に伴ふ淸淨優美なる情操があり、貞操の觀念確くして又温い同情に富める婦人を養成せねばならぬ。徒らに空なる知識を得て傲慢偏狹なる婦人をのみ産することは完全なる女子敎育とは云はれない。

それで確固たる道義の信念を養ひ、高尙優美を理想とせる圓滿なる婦人を養成せんとせば、現代の女子高等敎育は決して充分ではない。併し今日の處學校で此缺點を充實するといふことも或は難事であるかもしれぬ。そこで吾人は止むを得ず此の缺點は獨り宗敎によりてのみ充實されることを信ずるのである。即ち今日の敎育の不備な點は宗敎に依て補はるゝことが出來る。宗敎の役目は必しも茲にあるまいけれど、現今の敎育では確かに其の要があると思ふ。併し宗敎といふても唯だ敎理敎義を智的に學び覺ゐると云ふのでは何にも役にたゝぬ。宗敎は活ける人格を中心としたものでなければならぬ。佛敎ならば釋迦、儒敎ならば孔子、基督敎ならば基督を中心とし其活ける人格に親炙するの思を以て、其の精神に觸れ其生命と同化するものでなければならぬのである。

（文責記者）

夏期休業と女學生

麻生正藏

誤解される夏期休業

夏期休業は日本に生長發達したるものではなく、西洋より移殖傳播せられたる舶來品の一種であります。由來舶來の文物制度は誤解濫用せらるゝ事尠きのみならず、全然其本來の意義を沒却せらるゝ事は珍らしくはありません。吾國小學校令中には舶來品其儘の條項があります。例へば圖畫敎授に關する條項の如き、獨乙プロイセンに於けるものと寸分の差なしと云つても差支ないのであります、而も日本の敎育家は其本旨を理解せず近頃まで、全然誤解して怪しまなかつたのであります。夏期休業も之と同樣に誤解濫用せられておる一種で、夏期休業と云ふ名稱其者が誤解を惹起す原因をなしてお

ります。一體夏期休業と云ふは、一年中に於て教育に最も不適當なる夏季を一ケ月乃至二ケ月、西洋にては三ケ月間學校教育を休止して身神の休養に當て、益々教育の效果を大ならしむる目的を有しておるにも拘ず、夏期休業と云へば全然勉強を中止して萬事氣儘な生活を送つてよいものと心得ておるものがある。特に避暑地に在るものは自由といふよりは寧ろ放埒な生活方法を取り、午睡や歌留多などに耽つて、却つて身體を害するか或は如何はしい小説などを耽讀して、精神の修養は愚かな事、言語應對、座作進退悉く之を亂して無禮講の展覽會よろしくといふ狀態を演じてれる事も尠くないと聞いております。無論かゝる事は極端な例であつて、決して多數ではなかろうと思ひますが、夏期休業が斯樣な事に用ゐらるゝに至つては、只に本來の趣旨を失つてるのみならず、之が爲めに却つて教育の効果を毀傷する事夥しい、斯樣な風なら夏期休業は寧ろ廢した方がよい位であります。

吾國教育の缺點

實に夏期休業が誤解され居るて許でなく、日本從來の教育に種々の缺點がある、特に精神教育といふ事を尊重しなかつた事は實に一大缺點と云はねばなりません。一體教育は外に表はれたる結果によりて其効果の程度を察する事が出來るもので、例へば學生及學校出身者が自己の閑暇な時間を如何樣に費消しておるかといふ事を觀察すれば、從つて其教育の効果を想見するに難くないのであります。然るに學生及學校出身者が如何に其閑暇を——夏期休業の如き——送つておるかを觀察して、實に前述の如き有樣であるとするなら、誠に心細い話で教育の結果も亦甚だ微弱なものと云はねばなりません。

無論男女學生の惡風は社會全體の風潮の然らしむる點も尠くないのでありますが、教育家又は文部省も其責任を免るゝ事は出來ないのであります。之れ吾國教育方法の根本的に誤まつて居る所以で、徒らに知識技能のみを授けて、之に對する態度精神を等閑に附する一大缺點であります。例へて云ふなら、博物や手工を教ゆる場合に、現今の教育者は知識技巧にのみ腐心する許りで、研究の精神及趣味の養成等には何等の力を盡さない、だから學校を出ると博物手工の知識は何等の應用を見ないのであります。文學だつて其通りで、教育家は文學とは何ぞやといふ事は教ゆるかも知れんが、淺劣下等なる文學を退け、高潔なる文學に憧憬渇仰する精神を授けないのであります。要するに學校教育は學校内部に限られ、一歩外なる活ける人生とは全然沒交涉の有樣であります。之といふも教育者も被教育者も學校にて知識技巧のみを受授する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ものと思ひ、在學中及卒業後と雖も、人生の萬事に應用發達せしめ得る精神――或は趣味を――缺いておるからであります。平生かゝる沒精神的の教育を受けておるから、閑暇となると小人根性に引されて、怠惰な不善な生活を送るやうになつてくるのであります。故に教育當事者たるものは、學生が如何に其閑暇を送るかを檢察して、其授けたる教育の價値を判じ又學生も之を反省の料となし、改善進歩の途に精進しなければならないのであります。

如何に夏期休業を送るべきか

抑も夏休は絶對の休ではなく、轉業休養を目的とするもので、成規の學問の外別に之れに代ふるに、自己に適切なる勉强と同時に身神を休養するのが目的であります。尤も夏休の勉强には種々の方法がある事でせうが、要は各自の境遇の許す限り自己に最も適切なるものを撰ぶ事が肝要であります。例へば身體の薄弱なる人であつたなら、之が恢復に關して一定の計劃を立て、之に資力を傾注し、傍ら高尙なる娛樂を取つて精神をも健全にするとか、又は身體健全なる人であつたなら、自己の精神上或は智識技能上に於ける長處の修養に勉め、又は短處と思はれる處があらば一意其補給に努むるとか、事情は千差萬別でありませうが、各自の要求に適切に應ずるやう心懸る事が必要です。但し此處に肝心な事は、決して架空な、實行の不可能な計劃を立てゝはならないといふ事であります。裁縫も習はう、料理も稽古しやう、文學も研究しようといふ工合に、一時に多くの目的を立て、短日月の夏休中に之れ等を完成しようとする人々は中々多いやうに見受けます。斯樣な慾の深い計劃を立てる人は、全然無計劃な衝動的に仕事をする人に比較して　勝る事萬々でありますけれども、決して成功の夏期休業を送るとは申されません。斯る人は必ずや失望後悔落膽を買ふに過ぎないのであります。其他都會に好適なる計劃を其儘田舍に適應せしめやうとしたり、反對に山間の避暑地に適したる計劃を都會で實行しようとするが如き、皆之れ架空の計劃であります。

夏期の勉强實行の方法に於て、學校のと同一のものを撰ぶのも必ずしも惡いと云ふ譯ではありません。特に裁縫、料理等は女子に必要なる學問なれば、此際此方面に力を盡すのも良い方法であります。又學校にて學び得たる原理原則を實地に應用して見るのは更に興味深ひ學問であろうと思ひます。例へば兒童取扱の原理を學校にて學んだなら、親しく家庭の兒童に就て之の原理を應用して見、又洗濯の方法を學んでたいたら、家庭に於て實地にやつて見る等、其他種々見聞を擴め、交際の方法を學ぶなど、萬事につけ實地の活學問をする

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事が必要です。

人間を取扱ふ道

然し私が夏期休業に際して特に女學生諸君に希望する事は、活ける人間の取扱方を學ぶ事であります。料理といひ裁縫といふも、之れ等は死物を取扱ふ事なれば比較的容易であります。何故と云ふに、死物だと云つても此方の取扱方に對して相當の反應はあります。例へば料理に就いて云ふなら、甘く出來たら鹽を増して適宜な味を出すといふやうに、其反應は極めて制し易いのでありますが、之に反して人間はそう簡單に行かない。此方の取扱方に關して不側の反應を生じ、之が爲に種々の困難紛擾を醸すとが往々にして出來てくるのであります。恐らく人間を取扱ふ位困難な事はなかろうと思ひます。然るに當今の教育家は此道を教育するに甚だ冷淡を極め、殆んど此點に就ては無智無能と云つてもよい位であります。

昔ギリシヤの教育は實際的目的を持して實際的教育を施したが、其後に至りては抽象的觀念に重きを置き―其結果數學が非常に發達した――原理方則にのみ力を傾注し、教育の目的は抽象的思想家を作るの感がありましたが、其後近世になつて來ては多少趣を異にし、具體的物體を取扱ふの教育、例へば手工や實驗の學科を設けて、專ら具體的思想家を養成しようとした。第一種の教育は學生を以て悉く抽象的思想家と見做したるものにして、かゝる態度の人々は第二種の教育即ち具體的思想家を作るといふ事になつて、初めて教育の恩澤を蒙るに至つたのであります。然るに尙一つ他の方面の教育が缺けておる、之れ即ち人間の取扱ひ方を教へる學問であります。

人間の中には第一種の抽象的思想家でもなく、第二種の具體的思想家でもない人がある。例へば會社の部長といふ樣な人は、數多の人の上に立ち、巧みに之を示導し之と共同して行く人である故、第三種の人間を取扱ふ學問も決して不必要ではないのであります。婦人の中にも以上三種の性質がある事はあつても、全體から云ふなら、婦人は抽象思想家に適せず、寧ろ具體的思想家及人間を取扱ふ事に長じておりますし特に婦人と云ふものは良く人間を取扱ふ道に長ず可き地位におり、且つ天職を有しておるものでありますから、此方面の教育は極めて大切なる事であります。婦人は嫁して一家の主婦となり、良人、舅姑、義兄弟、姉妹、下女下男と直接相接して宜しきを得なければならないのみならず、加之親戚や良人の朋人知人等に對しても相當に道を盡さなければなりません。之れ即ち人間を取扱ふ事であります。此道は夏期休業

中に習得するに絶好なる學問でありますが、但し非常に困難な學問であります。此道に長ぜんとするには、先づ第一に自己中心主義を去り、自己の安逸名譽快樂等を捨てる克己心と、第二に人の爲め働くといふ個人的奉仕と團體的奉仕即ち他愛心とがなくてはなりません。此の克己心と他愛心は其初めは如何に微弱であつても、努力勉勵して造次にも此心を忘れないならば、次第〳〵に生長發展して來るものであります。若し斯る精神を以て立派に人を取扱うて誤なきやうになつたら、あらゆる他の方面の教育も初めて生命あり活氣あるものとなり、婦人としての天職を充分に且つ完全に盡くす事が出來ると確信するのであります。

うるさい子供

（於東京婦人會講演會）

倉橋惣三

昔から子供といへばうるさいもの、うるさいものといへば子供と大低相場がきまつて居ます。成る程子供は隨分うるさいものに相違ない。併し直きにそう澁面をしないで、少しは子供の方になつても考へてやらなければならない。そうすれば、其のうるさい中に意味もあり、とりゑもあり、又價値もある。そう一概に五月蠅々々とばかり、叱りつけたものではないといふ事が分るのであります。

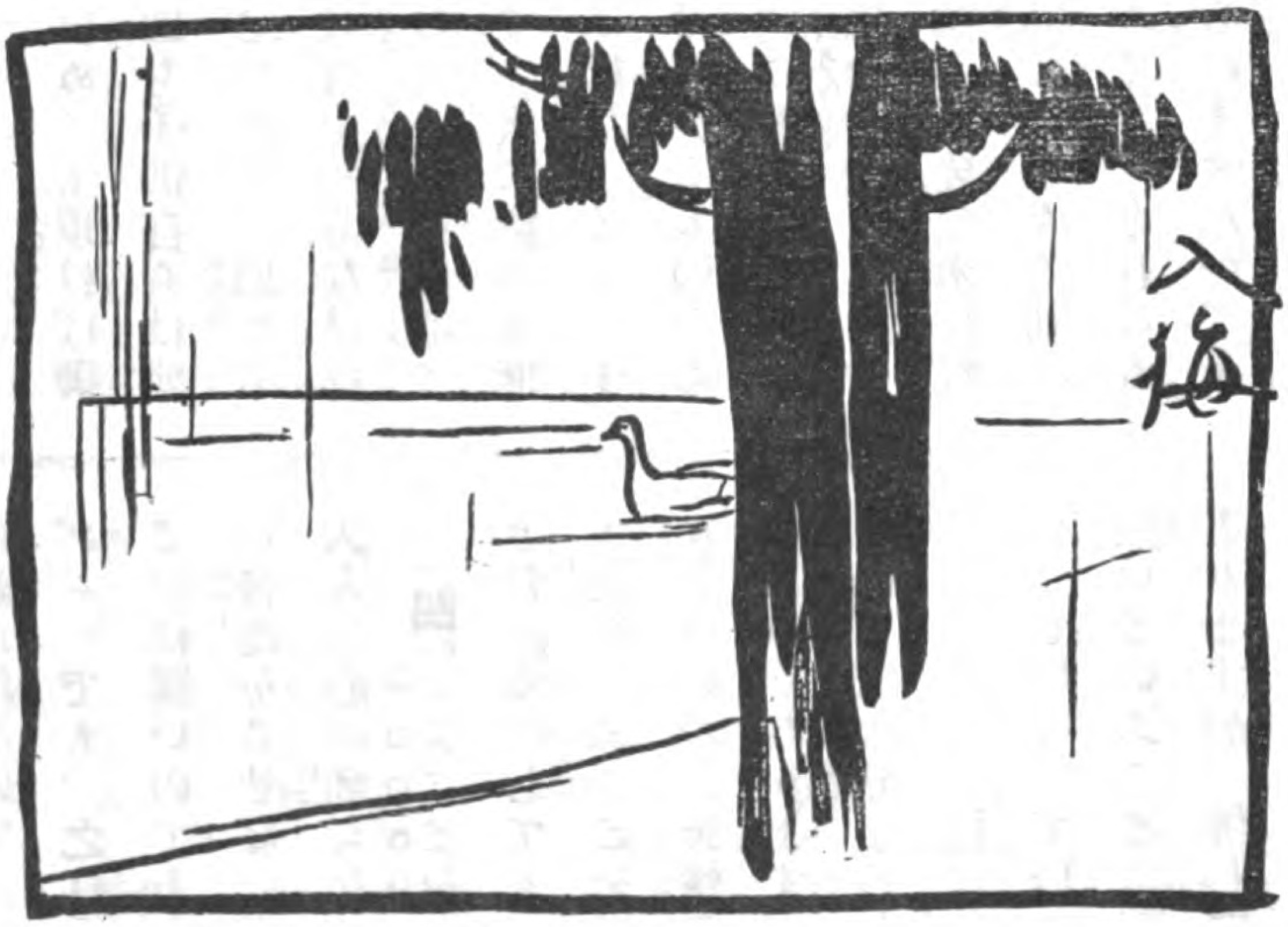
扨てそんならば、子供が大人にうるさがられるのは、一體どういふ處からであろうか。私はそれを四つの譯からだと思ふのであります。(一)泣いてうるさい。(二)色んな事を聞き度がつてうるさい。(三)いたづらでうるさい。(四)いふことをきかなくてうるさい。お前はほんとにうるさい子だよと云はれる時には、此の四つの中一つ若くは二つ以上を兼ねて居る場合なのであります。そこでうるさい子供のお話といふのは、つまり此の四個の子供の持前に就てのお話になるのであります。

(一)泣いてうるさい。彼の大きくなつてからの子供が、或は弱虫の泣虫である場合とか、すね泣きやおどし泣きを始めた場合などのは、茲で申すことゝは別の問題であります。そんなのはうるさいを通り越して怪しからんになるのでありますが、未だ赤坊の口もきけない、話も出來ないといふ様なのが多く泣いたからとて、それをうるさがるのは、大人の方の無理であります。赤坊が泣くには乾度何か身體に故障があつて泣くのである。それも泣いて大人に訴へようとするのではなくて、たゞ自分の其の時の感覺のまゝに反射的に泣くの

である。「ねゝ、いつ迄もいつ迄も泣いてばかり」と叱りますけれど、其の故障の存する間はいつ迄でも泣くのであります。故障を取り除いて貰へばすぐに泣き止むだけのことであります。其の自然的な泣き聲を以てうるさい〳〵といふのは大人の方の勝手であります。然かのみならず、其の故障の中には大人の不注意から出て居るものが少くない。其の甚しい例にこういふのがあります。或る小兒科の醫者さんの話に、或る時一人の若いおつ母さんが、赤坊を抱いて來て、此の子は疳を起して泣いて許り居て困ります、一つ御診察をといふ譯。成る程赤坊は頻りに泣いて居る。併し顏色などを見ても別に病氣らしい處も無い。そこで日頃の經驗から其の赤坊の着物を脫がして丁寧に裏を撫でゝ見ると、ちくりつと手を刺すものがある。檢べて見ると恐ろしや木綿針の折れたのが一本。赤坊が朝から絕ねず泣いたのも、おつ母さんの所謂疳の病も、一つに此の親の不注意のゆゑであつたのであります。此の他之れ程に甚しくない處で斯かる類の事はいくらもありましよう。直接になり間接になり、吾々が泣かして置いて、それでうるさがる樣のことがあつたら、餘り勝手が過ぎるといふものです。

（二）色んな事を聞き度がつてうるさい。子供が少し大きくなつて三歲乃至四歲位からになると、頻りに此の何でも聞き度がるといふことが始まる。學者は之れを兒童の質問時期などゝ稱して居りますが、見るもの聞くもの、事每に質問の種子とならぬはない。遇ふ人每に質問をかけられぬものはない、そこで又大にうるさがられる譯なのであります。勿論、處きらはず、時かまはずに質問をされては、つい面倒にもなる譯でありますが、併し、此の所謂兒童の質問期が、子供の知識のずん〳〵と進んでゆく時であつて、其の聞き度がりが貴重なる知識慾の本能的發露であるとすれば、之を敎育的によろこんで善用をこそすべけれ、假りにもうるさがり拒くべき筈のものではないのであります。で、此の子供の質問の樣子を檢べて見ると、先づ三四才頃からの幼い兒は「之れ何」といふ質問をする。それが少し進むと「何故」「どうして」といふ風に一切のことの原因を何處迄も溯つて知り度がる。次には「どうするの」と云つて物事の用途、使ひみちを知り度がる。又五六才頃になると盛に「どうなるの」「それから」「その次は」といふ具合に、事の行く先き話の續きのあとを〳〵と趁ふて聞く。處で物の名や用途位の處なら簡單に答へも出來るのでありますが、事物の原因を根掘り葉堀り聞かれたり、「それから〳〵」を止め度なく追求せられては中々答へが容易でない。シンといふ婦人の兒童學者は、「此年頃の子供は哲學者である」といふ樣のことを云つて居ります位で、中々思ひ

がけない六かしい質問も出る。すると面倒半分實は解答に窮しての末がお定まりの「うるさい」で胡魔かして仕舞ふ。之れが吾々大人の惡い奥の手なのであります。子供は折角の好奇心も、知識慾も滿足されないで折られて仕舞ふ。折られた後へ再び芽を出すと又折られる。斯様のことが度重なつては子供は其都度求むる知識を得られない許りか、終に大切な知識慾そのものが枯れて仕舞ふのであります。倦んでいやがる子供を叱つて迄、勉強を強ゐる人はあつても、子供の質問は大嫌ひな人が少くない。實にこんな矛盾な話はないのであります。又大切な此の質問期の子供を、無學な守や女中の手に任して、折角な子供の問ひを空しくし、或は　間違つた事を教へさせて平氣で居る人も少くない。サリーといふ學者は此の有様を見て「悲しい喜劇」と云つて居ます。大人は子供を賢くしようと骨を折りながら、其のくせ子供が知識慾を持つて生れて來るとうるさがる。實際之は悲しい喜劇とでも云はなければならないのであります。



(三)いたづらでうるさい。それから子供はいたづらをしては大人にうるさがられるのである。ところが、此の子供の惡戯も、之れを子供の方になつて考へて見ると、必ずしも惡い戯れといふ譯ではない。いゝか惡いかは知らないでした戯れが、大人から見てあとから惡戯とせられることが少くないのであります。此頃出た「いたづら子僧の日記」といふ本の中で、主人公のいたづら子僧が慨嘆して云つて居る。乃公が一寸身を動かせば直ぐいたづらになつて仕舞ふ。隨分損な性分に生れたものだと。之れ實に子供のいたづらの眞想を喝破した名言で、自分では何の氣もなくした事が、いつの間にか惡戯となつて仕舞ふのであります。そこで又、此の子供のいたづらを心理學的に檢べて見ると凡そ四種に分けることが出來ると思ふ。好奇心によるもの、摸倣心によるもの、戯曲本能によるもの、及び「アタビズム」によるもの。此の中で好奇心及摸

倣心に基くものは別に説明をする迄もありませんが、惡戯も全然惡むべきものでもない、其の心理的基礎には中々よい意味もあるといふことが分るのであります。即ち好奇心や模倣心はそのものとしては、子供の發達に極く大切なことでありまして、之れをよいことに使用すれば早速ほめても頂けば御褒美も貰へるのであります。それが偶々（即ち子供自らは惡意なしに）大人にうるさい事になつたからといつて、頭から叱りつけてはひどいのであります。將た又教育上叱らなければならないにしても、其の心理的基礎たる好奇心と模倣心とは買つてやらなければならないのであります。次に戯曲本能といひますのは、平たくいへば芝居氣といふ様なことで、子供は一寸何かおどけたことでもして人に見せ度がるものでありまして、それが極く幼い時から全く本能的にあるのであります。又「アタビズム」と申しますのは、進化論の方の言葉で隔世遺傳などゝも譯しますが、即ち吾々人類の祖先が未だ野蠻時代の時に有して居た生活狀態が、代を隔てた吾々の幼時にちよい〳〵とあらはれるといふことであります。之れにも色々の種類があつて一々詳しくは申して居られませんが、子供が酸ばい木の實を樹から盗み取つて食ふことを好むとか、木のぼりが好きだとか、何でも物を嚙むことが好きだとか、又或る年齢の子供が無暗に殘酷なことを好んで用もないのに犬や猫をいぢめて見たり、虫をいぢめたりする類、皆之れ「アタビズム」の現象であつて、吾々の祖先が野蠻時代に日常生活として行つたことが、進化論の法則で一寸子供の時にあらはれた譯なのであります。して見れば戯曲本能でも、「アタビズム」でも、之れ子供の自然の持前で强ち頭から責むべきことでは無いのであります。只それを適當に指導して誤つた惡い發達をさせない様に努むべきのみで、うるさがるのは吾々大人の心の到らない處であります。

（四）いふことをきかなくてうるさい。假令いろなん事を聞きたがるにしても、いたづらをして困るにしても、一度止めて直ぐいふことを聽いて與れゝば始末がよい。處がそれが中々そういかぬ强情の處が、子供のうるさがれる一つの原因となるのであります。處で、此の强情といふことは、其の行ひとしては大分よろしくないことで、子供の德育の基礎は從順にありといふ様な論者から見ると、何よりも最も忌むべき惡いことになつて居るのであります。勿論子供の身ですなほで無いといふことは甚だよろしくない。何處迄も矯正の必要がありますが、併し之れ亦其の心理的原因を考へて見ると一概にもいひ難いことで、凡そ子供の强情の原因としては、遺傳、健康狀態、境遇、天候、といふ様な内的外的の原因が與つて大に影響する。或は又第一の齒の生ゐる年齢、次に八九歳頃

の子供などで種々生理的の原因から、常は從順な子が變にむづかることも珍らしくない。特に營養の狀態、消化機の不健全等が因で氣のさばけない、拗ねものになることは大人でも通常である。して見れば、かゝる原因があつてのことであつて見れば、之れ亦うるさがるよりは、憐れむべきことで、叱るよりも、治療しいたはつてやらなければならないことであります。更に又、必ずしも斯かる生理上、又は周圍からの影響でなく、眞に其の子の不從順な心によるものであるにしても、其の不從順といふ處に、實は子供の意志の萠芽と、自我意識の初まりとがほの見ゑて居るのであります。今まではたゞ依賴從順ばかりであつた子供が、六つ七つ位からそろ〳〵自分といふ主張を始めて來て、自我を立てよう、己れの意志を通そうといふ風のことを始めて來るのであります。即ち不從順はよくないことであるが、此の自我の意識其ものには至極く貴い處がある。強情はやめさせなければならぬことであるが、意志の發達は挫いてはならない。即ち子供の強情の敎育は中々以て容易ならぬことであるのであります。勿論氣儘に捨てゝ置いては放埒になる憂ひがあるが、さりとて餘りに過酷なる制壓を加へては、強い子には片意地な反抗心を、弱い子には卑屈なる性質を、ずるい子には虛僞の從順を、夫々起させる樣になる。皆之れ角を撓めて牛を殺すの譬で、強情を抑てた爲に正しい意志の發達をも害したものであります。然らば如何にして敎育したらばよいか。それには種々の工夫も方法もありましようが、つまり意志を抑ゆるには意志を以てさせなければならないのでありまして、強情を抑ゆるには其の子自らの自制の力を以てするが、唯一の秘訣と思ふのであります。それをうるさい〳〵からといつて、間に合はせの外の力で抑へつけては、必ず其の子を害するものなのであります。

處で以上四つの場合、いづれもうるさい中に意味もあり理屈もあり、敎育上の價値もあることが分るのであります。而して吾々大人が、常にうるさいといふ口癖の一語の下に屢々子供を邪魔物扱ひにして、如何に不條理もすれば敎育の機會も失し、又その取扱ひ方も誤ることが多いかは、お互によく考へて置かなければならないことと思ふのであります。聖書にはキリストの弟子が子供等をうるさがつて、キリストに叱られ戒められたことが書いてあります。而して**ファストレーキ**といふ畫家の描えた此の光景の傑作を見ると、子供をうるさがる弟子達のいやな顏と　うるさがらないキリストのやさしい顏とが極めて巧みに描きわけてある。私共も愛らしい子供等に向つて、成るたけ一度でも、此の弟子達の樣ないやな顏をして見せ度くないものであります。

星

藤なみ子

「賢三さんのことを口癖の樣に云ひますので、そうかも知れませんよ、私は絶へず彼方のことを考へ出しますから。

「戀人ですつて、いやですよ、私を其麽閑暇人だと思つて被入るの、そうですとも戀なんて心に隙のある人のする事ですもの。

「いつでも私が云ふではありませんか、戀ほど馬鹿氣たものはなく、戀人程遲鈍なものはないつて、そうでせう此生存競爭の劇しい世の中に、他人に制御され侮蔑され、其で得意になつて居るのですもの。

「結婚は氣の抜けたシャンペンだと云つた人がありますが、戀は沸騰するラムネとでも云つたらよいでせうね、其時には隨分凄しい力もあるし、胸のすく樣な甘味もあるのですけど、其儘打遣かしてをいて御覧なさいな、たゞの水にも劣つて仕舞ひますに、誰が戀人のことなぞ何時までも、懷しがつて居るものですか。

「薄情ですつて、いゝわ、私ばかりじやありませんは、誰でも正直に心に聞いて御覧なさいよ、彼麽輕薄な人間を、どうして彼麽に好きだつたろと、本統に可笑しくなる事がありますに。

「其に就いて善い實例がありますの、私の行く教會にね、盛な沸騰を始めた連中があつたんです。其が或る新聞社の耳に這入つて、可愛想に二人は手厳しくすつぱ抜かれたのですね、そこで雙方親等から絶交するか、でなければ勘當と云ふお定りの宣告をうけたのです、牧師や友人からは頻りに忠告される、ぐづ〳〵すると學校からも退學されると云ふ次第なので思考へよ、分別せよと四方八方から責め附けられるのでせう。そこで二人が考へたのです、ところがいくら考へても考へても考へる程別れることは嫌になるのです、絶交するよりは死た方が善いと、とう〳〵二人は淺間山行と洒落たんですつて。

「愛子さん、その相手の女ですね、私に話したことがありますよ、世の中に死程悲しい恐ろしいものはないと思ふのですが、愈死ぬと決心して見ると、また其先に美しい立派な所がある樣で、恐いとも悲しいとも思はない、物凄い噴火口の側に立つた時でも是が絶對の自由と、永遠の快樂とを與ふる恰度天國の門の樣で、身も魂も一緒に溶けて、早く結附きたい、くつつきたいと、其が矢鱈に嬉しくて、只もう涙がこぼれたと云ふのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「元々、其儘死んだら幸福だつたでせうね、恰度殉教者が天を仰いて死ぬ樣なもので、でもそう都合よくはゆかなかつたのです。二人が夢中になつて泣いたり笑つたりしておりますとね、其處へ人が來たのですつて。

「何でも其人は觀測所の役人かなんかで、中々歸りそうな樣子もない、其上怪しそふに二人を視てばかり居るのだそふです、二人はとう／＼堪へ切れないで、一ト先つ下山することにしたんですつて、愛子さんがいつて居ましたつけ、彼麼口惜しいことはなかつたつて。

「でも不思議なものですね、一と足山を下り始めると、今まで天國の入口のやふに懷しく思つて居た噴火口が、魔物のやふな恐ろしい口を開ひて、後から追かけて來る樣で、焦熱地獄の樣な恐ろしい響、惡魔の嗅吹の樣な黑烟、呼吸の止まりそふな硫黃の臭、もう一分間も恐しくて、倒むだり、起きたり、夢中に山を下つたのですつて。

「それからですか、二人は御代田あたりの宿屋へ着いて、ほつと一ト息つきますと何たか夢から覺めた樣で、頭腦が急に明瞭すると今迄のことが、莫迦／＼しくて、死ぬごころの談ではない、まるで他界の人同志でも一緒に居る樣で何麼に固く手を握り合つても、強く唇が觸れ合つても、何の感じも起らない顏を見合せると阿呆らしくて、物を云ふさへ癪に障ると云ふのですよ、二人は別々に汽車に乘り、其まゝ別れて仕舞つたそうです。

「其後ですが、二人は全く何の關係もありませんの、時々翻弄つて遣りますとね、――ア、そうでしたつけね、――などゝ古い物語でも思ひ出すやふな具合なんですは、男の方なぞまだ壹月もたゝない内に、また他の女と好いたとか好かれたとか、鬱いだり泣いたりしておりましたつけ。

「あらまあ、貴方も煩縟いのね、また賢さんのことをお尋きなさるの、先刻も申上たじやありませんか、戀人なぞじやありませんつて。たゞ普通に交際しただけの人なのですは、今ですか、多分陸中の山奥に馬飼ひでもして被入るでせうよ。

「私が彼方を知つたのは未だ十四五の頃なのです、父が遠野に奉職して居た時の事ですから、母に伴ひて時々教會へ行きますと、講壇の前の腰懸に沈言て坐つて居る人がありましたつけ、其が私の云ふ賢三さんですわ。

「年ですか、そうですね其頃まだ十七八だつたで御坐いませうよ、何でも中學の四年生とか云ひましたから、色の黒い脊の高い、絶ねず物を考へてる様な人で、手織木綿の地味な着物ばかり着て居ましたから、私の目には廿二三の大人らしい人に見へましたわ。

「いやですね、顔の事なんか、私は其麼ことなど氣に留めて居るのじやないのですもの、でも私の心に映つて居る其儘を、正直に話せと仰有いますなら、眼は神の愛と義の光に燃ねて、頬には平和の浪が漂ふて居るとでも申しませうか。何せよ、十年餘も前のことですからね、無益い小なことなど、疾の昔に忘れて仕舞ひましたわ。

「忘れない事ですか、其は何と云つたら善いのでせうね、言葉を装つて云ひましたら、生命の泉とでも云いませうか、戀

しい時、寂しい時、不眞面目の時に、絶ねず慰めたり鞭うつたり、導いたりして呉れる力ですよ。

「私の十五歳の春、父は東京へ轉任いたしました、愈出立と云ふ其前夜私は賢三さんと一緒に教會から歸つたのです。

「何をお笑いなさるのです、嫌ですね、貴方は直き其麼ことを仰有るのですもの、其日は丁度日曜日で、母がお告別ひかた〳〵是非行きたいと云ひましたけれど、家が取込むで居りますので、私が代りに行つたのですは、其に賢さんの家は私の家へ歸る途中なのですもの。

「四月の半と云ふと、都は花の盛で御座いますけれど、陸奥の春はまだ淺い、午後から雪がチラ〳〵して、寂しい陰氣な晩でした、私は大な肩掛を頭から被ぶつて傘をつきながら、賢さんの後を從いて來ましたつけ。明朝は住馴れた此地を離れて知らぬ他郷へ行くのかと思ふと、山も河も皆懐しい、平常見馴れた壕や並木まで皆目新しく思はれるのです。田舎の人は親切ですが信者は特に親密で親類同志の様に互に思ひ合つて居るのですよ、其で年寄りなぞ涙をこぼして、――また天國でお目に懸ります、――などゝ云ふのでせう、其頃私はお轉婆盛りでまるで男の様な亂暴ばかりして居りましたけれど、其夜は胸が一杯になつて涙が何となく込上けて來るのです、私は沈默て力なく雪溶け途を歩いて居ました。雪はもう

休むで居ましたけれど、空は覆被ぶさる様に眞闇で、未だ九時にもならないのに、往來の人は至て少く町では、戸が締めてありましたけれど、枯木も軒端も一面に花が咲いた様で、賢さんの重々しい姿は雪明に月夜より猶ほ鮮に見ゑました。

「私は心のうちに這麽ことを考へてをりましたのよ、賢さんは無口で、お世辭のない、ちよつと恐そうに見へる方ですけど、心は優しい親切な人ですから、乾度離別を惜むで居て被下るだらう、いくら無愛想な方だつて、再たお目に懸るか何か解らないのだもの、送別らしい言葉の一つや二つは仰有るに相違ないと、母に敎つた御挨拶を心の中に繰り返して心待ちに待つて居たのです、でも賢さんは何も仰有らないのですの。

「口說ば善い?。あら、また貴方は其麽ことを、私は其麽意味でお話して居るのではありませんのに、でもね憚ながら、私の好な賢三さんは其麽安つぽい男じやありませんは。

「ゑエ、ゑエ、そうですとも、貴方は惚れたの、口說かれたのと、餘程難有い尊いことの様に自惚なさつて被入けれど、お氣の毒さまながら未だ修養が足りないのね、考へても御覧なさいな、自分が心から崇拜して居る人の前へ出て、——私は貴方を愛します——などゝ臆面もなく握手などが出來ますか、でも御安心なさつて頂戴な私は彼人に憧憬て居たのではありませんから、若し其麽心の片端でも心の中にあつたとしたならば、私は彼人を侮蔑したものだと思ひますわ。

「其からですかとう〳〵二人は沈默たまゝ五六丁の途を歩いて、いつか賢三さんの家の前を通り越して仕舞ひました。でも賢さんは矢張り私の前に歩いて被入るのです、其で私は送ツて被下るのだねと思ひました、でね、何とか云はなければ濟まぬと思ひますけれど、「御氣の毒さま」とか、「恐れ入ります」などゝありふれた言葉は、其人の親切を無にする樣な感じがして、私は無言で後に從ひました、何故つて、賢さんは思はせぶりに親切をする人じやないのですもの。

「其から私の寓居の角まで參りますとね、賢さんは急に立止つて、——では——、と輕く禮をなさいましたつけ。——左樣ですか、どうも。——と私は周章てお辭儀をいたしましたが、後に續く言葉が何も出ないのです。お身體をお大切にだの、永々お世話さまになりましたゞの、お祈りのはしにお加へ被下いだの云ふことは、僞善者の社會に行はるゝ言はずもがなの挨拶で、純朴な賢さんに言ふのは失禮な樣にと思はれましたの、でも心の中には言はなければならぬ事、是非聽いていたゞきたい事がある樣で本統にもどかしく思ひましたつけ、併しどうしても私の言葉は感情を表はすに足りないのです。賢さんも用ありそうに度々私を御覧なさいましたけれ

ど、相變ず何も仰有いません。這麼風で二人は三十分位立つて居ました。

「遮莫々々敷でせうね、貴方などから御覽なさつたら、でも無益いお世辭の遣取や、甘たるい小說の文句の復習などより何麽に樂しかつたか知れませんわ。

「不圖彼方の空を眺ますするとね、星が一つ光つて居りますの、――アラ星が！。――と云ひますと、賢さんもきつと其方を御覽なさいました。地は白妙の壁を彫めた如く、天は渡津海のどよめく如く見ゆる中に、水の滴れそうな星が燦めいて居るのでせう、私は彼樣な壯嚴な感じをしたことがありませんよ、暫く二人は星を眺めて居りました。

「ねゝ、まア沈默て聞いて居て頂戴な、するとね、二人の心の中は星の纖弱い光を通して互に了解された樣な氣がするのです、私が賢さんを見上げますとね、賢さんも私を瞰て被入います、思はず二人は微笑ひましたの、そうして――左樣なら――、と明浙云つてすつと別れて仕舞ひました。」

「其からつて、其でもうお終末ひですの、何で手紙など出すものですか。無歎樣つて、貴方は戀とか、接吻とか、涙とか云はぬと、何の趣味もお感じなさらないでせう、けれど私は其時ほど歡樂い時はないのですよ、六ケ敷言葉で云ひますなら、私の信仰も、理想も觀念も皆瞬間に生れ出したので御座いますもの。

「初戀ですつて、たや〳〵、とう〳〵戀のお仲間入りですか、併し私の戀と貴方の戀とは違ひますよ、貴方は情人の愛情を要求なさる、片戀をお恨みなさる、別離を悲むで被入る、逐げぬ戀をお泣きなさる、絕わず人と共に動いて被入るので御座いますけれど、私は嘗て賢さんに對して何の慾望もあつた事がないのですもの。

「私は本統に這麼氣がいたしますの、神樣の御心が賢三さんの姿を借りて私を感應して被入るのではないだらふかと。

詩二篇

瀫橋

囚人

雲うごく五月野のつめたき流れ、
遠山をかげりゆくはげしき光。
小走りに草踏みて鍵鎖鳴らして、
囚人の一群は前を過ぎ行く。

伏目して編笠の歎きするもの、
嘲りを口笑に洩らし行くもの。

鋭き目、高き鼻、紅き唇、
姿よき女さへ変りて行きぬ。

わがうちの罪悪の苦痛に觸るゝ
柿色のよそほひの傷ましきかな。

白日の處刑よりうけし平安、
無意識に四人の胸を流れむ。

人知れず隱したる罪のむくいに、
僞りのわが生はふるびおとろふ。

飢渇

野のはてにやゝ殘る淡き明るさ、
あゝそれもにじみゆく墨汁に爭ひかねつ、
呼吸さへ重荷とも感ずる時に、
茂みより輝ける狭霧のごとき、
月光は澄みわたる清水の色を、
衰へしわが膝に足にそゝぎぬ。

わが前にもがきゐる犬のくるしみ――
神經をかきむしり狂ひつかれて、
默然とうづくまり弱れる時に、
茂みより輝ける狭霧のごとき、
月光は澄みわたる清水の色を、
衰へしその顔に足にそゝぎぬ。

萎へし手にむしり取る名無青草、
與ふれど、甲斐なきをわれも知りたり。
犬もまたかひなきを目にて知れども、
尾をふりて懷しみ我を見あげし
まぶたよりきら／＼と涙ながして、
草の上に月かげと共にそゝぎぬ。

如何なる童話が最歡迎せらるゝか

石野爲之助

此間題を解決する前に童話の種別をなす必要がある。大別すれば左の通りである。

一、假作物語　此れは想像から作つたもの、
二、實際的物語　實社會の出來事を材料とせるもの、
三、理科的物語　科學的の智識を與へると云ふ考で動植物鑛物天文などに關係せる話
四、歷史的物語　聖書歷史、人物傳、英雄逸事などを材料とせるもの

扨以上の四種類に區別することが出來るが今順序を追ふて大略話方の注意を述ぶれば、假作物語には言葉の練習に注意を怠つてはならぬ、又決して大人らしいやふな言葉の使ひ方をしてはならないのです、可成は一度子供に話し聞かせ、それを更に子供に言はせるといふ方法を取るがよい、又此假作物語には想像であるから餘程裝飾せられて居る故勉めて野鄙な裝飾を避け美しき裝飾のものを撰ばねばならぬ、而して此假作物語を用ふるは先づ尋常一二年の子供まてゞ我國の子供は割合に早く發達して居るから、最早二年の子供は此假作物語を喜ばぬ傾向がある。子供の考が進んで來るに從つて如何なる面白き話でも、それが本統にあつた事かどうか、噓かどうかと直に聞くものである。最早其時代には假作物語を用ふべき時期でない。若し子供から熊が物言ふかと云ふやふな問が出て與れば假作物語は廢さねばならぬ。かくして其時は實際的物語に移つて行かねばならぬ。

實際的物語は成るべく種々なる手續を用ひて、それは實際的であると云ふ考を持たせるやふにする必要がある。前述せる如く此話を要する時代の子供は事實如何といふことが興味を起す本となつて居るからである。此實際的物語に就て注意すべきことは人間の光明の方面を語り暗黑方面を避ける事である。例へば繼母の話罪惡の話などを避けねばならぬ事です。又餘り實際的に語つて子供に餘程恐しいと云ふ考を持たせぬやふにせねばならぬ。さうして話は常に積極的の話を撰ぶがよい　或は斯ふ云ふ善い事があつたとか、斯ふ云ふ勇しいことがあつたとか、と云ふ話がよい。此に反して消極的の話は一般に敎育的でない。子供に斯ふ云ふことをしてはならぬ、あゝ云ふ行をしてはならぬと云ふよりも寧ろ斯ふ云ふ行をしろと云つて敎ふるがよい。日曜學校に初めて子供が來た時に、其子供の思ふて居る正しき事とか、善い事とが云ふことを尋ねて見ると、多くの子供の大低善いと思ふて居る事はこう云ふことをしないのが善いのだと云ふ事を知つて居るのであります。

斯ふ云ふことをするのがよいのだとの智識は餘程缺けて居ることを發見するのである。此れは從來の家庭敎育の誤で積極的の敎授法が缺けて居る爲である。又實際的の物語と云ふものは敎師は常に實際の材料を取つて敎育の考から話をする

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

故、如何しても其事實の話の中に敎訓を含ませねばならぬ。併し子供をして特に敎ふる爲に飾て云つて居ると云ふやうなことを見破られると、其時は最早興味を失つた時である。

理科的の物語は動物の話が最興味があり、次で植物であるが鑛物になると餘程興味が少い。併し此れも子供の思想が發達して天然界の物に就て注意するやうになつた時代には、非常に理科的物語を喜ぶやうになるものである。我國の兒童は英米の兒童に比して殊に此思想が乏しい故に、幼稚園日曜學校及家庭に於ては特に注意して、兒童の常に經驗して居るやうな自然現象に就て成る丈注意さす方針を取るがよい。

歷史的物語は舊約聖書などには隨分面白い材料に富んで居る。或は豫言者の話、或は有名なる篤信家の少年時代の逸話等は最少年の喜ぶものである。總て歷史的材料を用ひ智識を與へつゝ興味を持たせる方法を取らねばならぬ。只玆に注意すべきは戰爭の話などをして、餘り實際的に現はし過ぎて戰爭とは慘酷なもの、戰爭とは爭ふこと、戰爭とは何時も掠奪すること、戰爭は恐しいものだといふやうな、さう云ふことに就てのみ智識を與へるやうなことがあつてはならぬ。玆に一言兒童としての歷史物語と歷史と云ふものの區別を明にして置く必要がある。例へて云へば童話が繪畫で歷史の方は寫眞のやうなものである。繪畫と云へば畫家が自分の考でもつて今現に寫し出さうとするものを自由に裝飾すると云ふ權利がある。例へば今玆に豐臣秀吉の肖像を畫かんとすれば、其肖像畫が太閤秀吉であると認められる範圍内で出來得る限り英雄らしく、且豪傑らしく裝飾し得る自由がある。然し寫眞の方は決して左樣な勝手なことは出來ない一分一厘の相違を許さぬものであ

る。故に歴史は寫眞のやうなもので少しでも事實と違ふことを許されないのです、所が童話としての歴史物語は繪畫の方でありますから、敎師の考に從つて、敎育上の目的を達するに都合のよいやうに、去りとて敎師が態々左樣云ふやうに作り變へたと思はれないようにして——其裝飾が噓であると思はれない範圍内で自由に此を裝飾することが出來るのであります。故に總て童話として材料を取りまするならば、敎師の自由なる裝飾を許すと云ふことがあります。既にさう云ふやうに裝飾を許しますから從つて敎育上の効果の多くなると云ふことも勿論の話であります。

以上列擧せる四種の童話中何れが最多くの兒童に歡迎せらるゝかに就ては、年齡の相違境遇の異同に依て斷言し難しと雖、六七歳迄は假作物語を最喜び十歳までは實際的物語、十二三歳迄は歴史的物語、十四五歳迄は理科的物語なるが如し。今私が割合廣き範圍と長き期間用ひて歡迎せられた童話を左に掲げて見よう。

我處に太郎と云ふ子供がありましたが、或日パンを自分で作つて見たいと思つてお母さんにパン粉を頂戴と云ひますと、母はアノ女中に云つてお貰ひと云はれ、子供は女中の處へ行つて賴みますと、女中は粉屋へ粉を買ひに參ります。スルト粉屋は臼引屋さんの所へまた買ひに參ります。

スルト又臼引屋さんはいくら臼があつても小麥がなくては粉は出來ませんからとて又お百姓さんの處へ買ひに參ります。スルトお百姓さんは畑に賴みます。畑は雨さんやお日さんに又願ひまして、アノお日さんドウかよく輝して下さい、ソシテ小麥が大きくなりますやうに、又アノ雨さんあなたは時々よい加減に雨を降して、小麥さんの水の飲みたい時には飮して又衣服の洗濯などして下さいと賴みます。所でお日さん雨さんはいくら輝りましやう降りましやうと思ひましても、萬物の造主なる天の父の御心でお座いませんならば、何をすることも出來ないから天の神樣にお願なさいと申しました。それから其太郎さんはいつでもパンを頂く時、御膳を頂く時には、神樣にお願をして、お禮を云ふてからでないとたべませなんだ。

此話は其單純であるが兒童の聯續的本能に適合し居る故に歡迎せられる譯である。一つの童話を話す時でも一通りの兒童心理學を心得て話すと話さゞるとは話其物の興味に多大の關係のあることは爭はれぬ事である。

お轉婆ちがひ

みさんが小學時代のこと、「紫式部や淸少納言の時分の女子は學問はあつたがおてんばだつたんですつてね—、先生かさうおつしやいましたよあんな着物でよくおてんばが出來てね—」と此子の心の中には十二單衣の官女の競走や縄さびの圖か描かかれてゐたのでせう。

伯父さん

平山訓子

上

わたしの學校よい學校よ
敎場廣いにわひろい――

黄ろい、勇ましい、聲が、小川に添ふた扣殼の生垣を廻るかと思ふと、ぱつたり止つて、飛鳥の如に驅け附たのは、背の高い柳の古木が、天然の門を作つた小やかな家の門邊、色の白い、すらりとした婦人は、抱くやうに子供を迎へた。

「おゝ鐵郎、お歸りなさい、先刻から此所へ出て待つてゐたよ、」

「母さま、僕、今日、お丸貰つた、」

子供は得意氣に母親の袂にすがり乍ら負つた鞄をがちやがちや言はせて、これ此中にと、半分は笑顔で其中を示す。

「さう。好かつたのね、まあお客様と逢つてから後に見ましよう、ね、お客様だよ、お客様が待つてゐらすしやるよ、早く汝に逢ひ度いと言つて先刻から、」

「母さま、だあ――れ、」

「汝の伯父さま」

「噓だ、母さまは噓ついてらあ、僕、伯父さまなんかありやあ仕ないよ、」

「さうぢやないよ、まあ行つてお逢ひなさい、早く……」

と母親は優しく我子の手を執つて、何處やら寂しい面わにほんのりと、言ひ知れぬ喜悦の色を浮せ乍ら母家に入つた、

中

「何うもお待せ致しました、只今漸々歸りまして」と、母子が這入つて來たのを、

「イヤ、是が鐵郎さんかい、おゝ父さん似だ、大きく成つた。」

と肥滿な身體を起して、是も言ひしれぬ喜悦を柔和想な顏面に湛ゑ乍ら迎へたのは、年齡五十近い老紳士、鼠羅紗のしつくりとした脊廣を着た胸のあたりに、煌めく金鎖が飛離れた不調和も見せぬは、何れ卑しからぬ身分の人柄を想はせる

「鐵郎、伯父さまにお叩頭は?、は……、何うも平常が放任つてあるものでムいますから、御挨拶やなんか障張り出來ませぬ……」

と母親はなかば言譯らしく、半自慢らしく、自分とお客の中に立つた子供を眺め〳〵、嬉しさうに云つた。

「イヤ、其れが良い〳〵、余り小利口に育つと人柄お大きう成ませぬぢや」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同じく瞳は、雄々しい、逞ましい兒の顔に注いで、深い感慨は、遣る瀬もない壓迫を老の心に與へるらしい氣振、

「鐵郎、何故默つてるの、伯父樣はね、遠い所から鐵郎を見度いといつて、遙々入らすして下すつたのよ、伯父樣と言つてごらん、お父樣のお兄樣だよ」

と、まだ伯父さんを串實にせぬ我子の素振を、氣の毒さうに母親は優しういつて見たが、子供は得心がいかぬか、突立つた儘默つてゐる。

「良い〳〵、賴母しい兒だ、伯父さんもこれで大きに安堵したのぢや、鐵郎さん、お汝何歲に成つたのかい……」

子供は妙に笑つて母親を見返つた。

「お答へなさい……」

「やゝ強く睨めた母親の容子を見て、

「八歲」

と氣味のよい程透つた聲に、確然と答へる

「おゝ八歲だ、丁度八歲だね、好く生成つた、これも母さまのお蔭だよ、母さまのご恩を忘れてはなりませぬぞ、鐵郎、鐵郎さんは何がお好きぢやつた……」

「學校……」

「さうぢやな、學校ぢやな、何に成るの」

「母さまの好きなもの、」

「おゝさうか、母樣の好きなもの、よく分つた」

嬉し想に微笑む母親を見返つて、客は愈々感慨迫るらしい容子をした。子供は鋭い眼光で不思議さうに客の容子を見てゐたが、くるりと子供らしう母親に向つて

「母さま、本當なの？」

と訊く

「何がよ……」

「母さま、此伯父さん、僕の伯父さん、本當の伯父さん、死んだお父さまの兄さん……」

瞠つた眼には、何事も忽がせにせぬ鮮やかな智識が顯然と偲はれる。

「さうですとも、」

母親は強く言つたが、それでも現れた我子の素振に、今迄の永い間、わざと心あつてでも、それといひ聽せなかつた、自分の角々しい心の中を見透かされる如な心持のして、逢つて見れば、思ひもかけぬ心柔しい貴い人柄の其人の手前、何とも知れぬ耻かしきを覺えた。

「ハヽヽ、鐵郎さん、知らないのは無理がない、お汝にも、母さまにも、相濟まぬ不沙汰を仕た伯父さんぢや、だが、鐵郎、これからは世間並の伯父さんぢや、よいか、お父樣の兄さんだよ、」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

笑がほの奥には、音もなく流るゝ涙がある、言葉の端は自から慄へを帶びて、心弱い女性ならば屈折るゝ處を、柔和な面てにじつと踏みこたへる丈け、氣の毒に見遣らるゝ

「伯父さん……」

子供は初めて伯父さんと呼んだ、そしてなつかしさうに、母親を離れて、肥れた、温かさうな老人の膝に凭れた。客は引寄せて、

「鐵郎、本當の伯父さんだよ、好く生成つた、早う生成つて、お父樣の跡を嗣がなきやあならん、母さまを樂にして上げなきやあならん。好い兒だ、鐵郎、伯父さん家に行かないかい、海もあるよ、大きな町もあるよそれから好きなものは何でもあるよ……」

といふと子供は、さも嬉しさうに

「兄さんは居るの、」

と訊く

「あゝ、兄さんも居る……」

と客は無雜沙に聽き流さうとするのを、母親は横から、

「あなた、兄さんが居ぬのが、此兒の一番の苦痛で御いますよ、母さまは何故兄さんを生まなかつた、父さんは何故兄さんを生んで死なゝかつた、と無理ばかり申しまして、ね……」

と、女氣の脆くもまじ〳〵と浸む涙を落さじと拭いた。

「イヤ、無理はない、一人子は中々育て惡いとのことぢや、貴女には斯うしてお骨折ばかりをかけて、何ともハヤ……、お氣の毒さばかり、家内〳〵とも申して居る樣な譯で……」

と、客もつまされて鼻をかむだ。

「兄さんが居たら、母さんと行くよ、僕、嬉しいや……」

と子供は已う慣れ切つて無遠慮に伯父さんを搖ぶり乍ら云ふ、

「さうか、お汝一人は何うぢや、母さんと二人でなきやあ――行けんかい……」

「母さまは泣くよ、母さまと二人でなきやあいやだ……」

「ご覧遊ばせ、斯うですもの」と、心の中には目的した的をかつきり射止めた秤の心弥さを覺ゐたが、母親は人の親切を無にするが氣の毒さに、

「鐵郎、お汝お休みになつたら行かないかい、伯父さまや、兄さまに可愛がつて頂けるよ……」

といふと、子供は耳にもかけぬらしく、急いで母親に來て、

「母さま、此伯父さんはお金持なの」

と訊いた。

「ホ、、、何故……」

「だつて、黃金の時計を持つてらあ――、伯父さんは」

「ハツハツハ、これかね……」

客は初めてから〳〵と打笑ふて、煌めく胸の鎖を取解して子供に掛けて遣つた。母親は周章てゝ

「お汝、こわしちやいけませんよ」

と橫から取返さうとすると、子供は邪氣がない、伯父さんが貸たよ、伯父さんだもの」と驅け出して下女にでも見せる氣だろう、勝手許へ飛んで行つた。跡を送つて母親は、仕方が厶いませぬ、丁度只今が惡戲盛りでと、急に茶を汲んで、白けた座を盛り返さうとすると、客は唯もう感慨に打れて、

「イヤ、此分なら迚も離れも離しも出來ませぬな、まあ貴女も、死んだ省吾が、再生き返つたと思ひ返されて、若盛りをた氣の毒ぢやが、ご面到を賴みますよ」

と心からいふた。客の言葉を、今更言ふ迄も無いと聽く母親はキと美しい眉根を擧げて、

「義兄樣、左樣な御心配は決して要りませぬ、鐵郎は私の唯一粒種で厶いますもの、離すの、離さないのつて、鐵郎を離れる時、私の生命はない時で厶りまするよ……」

と鋭く云ふと、客は周章てゝ

「イヤ、ご決心は好う分つてゐるけれど、唯お氣の毒に思ふばかりでな、惡うとられては困る」

と恐縮した。

下

伯父さんへの御馳走だと、無理遣りに女中を連れて行つてまだ熟れもせぬ裏の杲を、あれよこれよと、騷がしてゐる鐵郎を、聞き知つた優しい聲は

「鐵郎、鐵郎」

と頻りに呼んでゐるので、
「何ーに、母さま……」
と驅けて行くと、伯父さんは早や歸りかけて、鐵郎を待つてゐた。
「伯父さん、何處行く？」
「伯父さんは已う歸るよ、お汝さんを待てゐたんぢや、また來る、御機嫌よう……」
鐵郎は切角力に思ふ人を得たのに、已う行つてしまわれるかと思ふと、俄かに悲しい心地がした。
「嫌だ、伯父さん、行ちや嫌だよ——」
「おゝまた來る、母さまの云ふ事を聽いて、勉强して偉い人になるのぢや、よいか鐵郎、ね、鐵郎さん——」
と此方も何となしに後髮曳かるゝ思ひで言ふと、子供は今にも泣き出しさうな顔付をして、
「嫌だ、いやだ、母さま、伯父さんを留めて、」
と賢しい丈け、思ひ込んだら中々肯かぬ。
「鐵郎、お汝良い兒だつたね、伯父さまは再入らつしやるよ、母樣と二人で、勉强して、多きくなつて、待つて居ましよう、ね、鐵郎、」
母親が優しうなだめると、少しは得心が行つたか、返す言葉もなく、鐵郎は默つて突立つた。

「好い兒だ、また來る、今度は土産を澤山持つて來るよ、さよなら……」
と伯父さんは子供の頭を撫でたが、今度は母親に向つて、
「イヤ、お君さん、それなら御機嫌よう……」
と云かけた。
「ぢや、お母樣初め、お姉樣にも宜しく願ひます」
と母親は鐵郎の手を執つて、門の古柳の所迄見送りに出た。
鐵郎は默つてひかれた。
なつかしい伯父さんは、夢の如に永い影を曳いて消ねやうとする、鐵郎は、突如、背の高い古柳に昇つた。さら〳〵と悠やかに流るゝ川音が、人の氣もない野原を傳ふて、遙々と白い筋を描いて行く。
「伯父さ——ん」
となづかしさうな聲で木の上から呼ぶ。
「おー——い、さよなら……」
と消ね行く影から反響が來る。
母親は茫然として、やがてほろ〳〵と、得もいへぬ骨肉の親に泣いた。

運動ちがひ

動（尋小四年）「代議士になるには體が丈夫でないといけないの」
母「どうして」
動「でもみんなが謙チャンとこの伯父さんは代議士にならうと思つて運動してゐるつて言ふから」

講壇

良心の覺醒

海老名彈正

吾々の良心が何時も目を醒まして居て事々に其の光りを放つと云ふ事は、ある人には恒の心となつて居るけれども、常並々の人々はこれを見ることが出來ない。何か並ならぬ事柄に當つて初めて目を醒ますのである。其の事柄は自分の事ばかりではない、周圍の事にも世の中の事にもある。併し注意して居らぬと良心が餘りに働かぬ。目でも耳でも働かせなければ役に立たなくなる樣に、我々の良心も常に用意して働かせて居ないと非常の場合にも目を醒ます事が出來なくなる。

近頃の新聞紙を見ると疑獄亦疑獄と云ふ有樣である。夫れが下等社會のみにあると云ふ譯ではない。國民の中流上流の人々で樞要の地位にある者が、朝には誰、夕には誰れと云ふ樣に逮捕される。如是き事柄によつて良心が目を醒ますのであろうかと思ふと、公判によつて見れば比較的に良心は覺醒して居ないのである。

人間は時あつてか過ちに陷る

ことがある、これは吾々も赦さねばならぬ。社會の上流に位して居る人が永く獄裡にあつて眞面目に考へる時を持ちながら、何も深く考へた處が見ねない。裁判所は何とか云ふて言ひ免れゝばよい所と思つて居るので、何を言ふてるのか解らない。疑獄亦々と起り來るときは所謂群衆心理によつて段々惡い方へ傾いてくる。小兒でも一人居れば大人敷いが、三人五人と集まれば惡戯をする樣に、誰も彼も惡いのだから、この惡い傾が多くなるのである。この責任を負ふ人は少なくない。第一に責任のあるのは學者である。過去三十年間の學者は良心を馬鹿にして居る。進化論者も科學者も經濟法律等の學者も良心を馬鹿にして居つた。文學者さへ良心に逆つて其處か

ら出てくるものが天地の深い處でゝもある様に良心を蔑にする。更に悲しむべきは〃の責任が宗教家にあることである。何時でも宗教と倫理とを別々にして居る神秘家は惡いことを闇い處で胡魔化して居る。これは決して健全なる宗教ではない。夏の雑沓や溝の菌の様にこれが日本人の良心を腐らせ麻痺させる一方面である。故に麻痺して居るものよりも麻痺させた人の方に責任がある。

平素志のあるものとないもの

が非常の場合にはどうなるかと云ふ事をある國の人情風俗を書いたもので讀むだ。ある青年が中學より大學の教育まで卒つて郷里へ歸つて居る。其の青年は日頃尊敬する父母や家人に話さずして折々家を忍むで出た。併し家人は其れを知らなかつた。嚴格な家であつたから、毎夜十時頃になると父が見廻りに來る。處が其の青年は友人を自分の寢床にねかしておいて、とある野外で近村の女子と密會をして居つた。さて其の密會中に非常の事が起つた。夫れは日頃苛酷だと云つて惡評されて居つた其處の郡長が殺されたのである。其の青年が密會して居ると馬車の音が近づいて來たので、驚いて身を隱した。夫れとも知らず車中の人は互に話し合つて往つた。馬車には四人の男が乘つて居つた。其の人々を彼の青年はよく知つて居つた。少なくとも其の中の三人の聲は彼等が何人であるかを聞き分けうれる程、よく知つて居つた人々である。斯くて四人の者が森影に這入ると間もなく再び馬車の響がして來た。夫れには郡長が一人乘つて居つた。其の時は中天に月が懸つて居つたので四邊の光景を見る事が出來た。青年は郡長の馬車を見送つて居ると、馬車は顚覆した、すると突然森影より躍り出でた四人の者が郡長の馬車に飛びかゝつた。「人殺し――！」と叫んだ聲が彼の耳を貫いた。慘憺たる其の光景と其の悲鳴とで彼は何とも云へぬ心になつたのである。かくて郡長は殺され犯人は何處へか逃げ去つた。夫れが爲に彼の青年は密會した婦人と樂しく語ることも出來ないで別れて家に歸つた。彼は生れて初めて人殺を見た。犯人は日頃知り合つてゐる人々である。自分等の密會に就ても後ろめたく思ひ悩み苦しみつゝ床に這入つた。翌朝は非常な人殺の噂である。前夜彼の青年の密會を助けた友人は、彼の青年が密會した附近に人殺があつたと聞いて非常に心配し、直樣往つて見ると密會した例の女子が居つたので、その相手の安否を尋ねて居る處へ巡査がやつて來て、嫌疑があると云ふのでこの青年は拘引されて仕舞つた。この場合に當つて

彼の青年は如何にすべきであろう

知人の犯罪を告ぐべきか？　さうすれば自分のなした密會の

事も暴露して、世間に赤恥をさらすが故に最早世に出ることは出來なくなる。時に捕へられた友人は氣の毒な事には自分の爲に誤つて入牢して居る。密會の恥辱は却てこの友人が負はされて獄裡にくるしんで居る。こゝに於てこの事は自分がドウかしなければならない。友を救はうと思へば犯人の保證をしなければならず、保證をすれば自分の恥をも晒さねばならぬ。如何ともすべからざる境遇に陷つて仕舞つた。其の時に彼の青年は如何したであろうか？恁う云ふ事は父母兄姉に謀るべきである。併し父に語ることも母に相談するともできぬ。父には氣の毒である。母には心配をかけたくない。かくて彼は思ひ惱むで寢て居る。良心には責め辱められて非常に苦むで居る。彼の青年が家族に向つて公明正大に結婚の事を相談すれば何事もないのに、密會しつてあつたことは終生の恥辱。友を冤罪より救はねばならぬが、夫れには自分の罪を明さねばならぬ。親に明すには恥かしい。搗て加へてこんな煩惱の時には自分は實に怖ろしい顏色を示して居るのである。犯人等は猜疑の眼を以て世の中を見て居る。彼等はこの青年の顏を見て直ぐ悟つた、最早彼は免るゝことを得ない。これを思ひ彼を思ふて苦惱又苦惱いかんともする能はず、遂に彼は天主敎の寺院に逃げこんで出家して仕舞た。

其の結果は何を得たか一種の平安は得られた。モウ巡査も來なければ、犯人等の手も及ばない。自分の罪は僧侶に懺悔した。併し彼は人格に於て何をも得なかつた。彼は魔醉劑を飮んで自殺するやうに寺院に入つて平安を得た代りに社會には死んでしまつた。ある種の宗敎的安心は即ちこれである。

然るに

入牢させられた青年はドーしたか

彼は友人の爲に苦痛を受けて居るのであるが、前夜友人の密會を助けた罪は免れない。彼は父母に面會して悉く自分のことを明かし、友のために冤罪を受けて居ることを告げた。母はこれを聽いた。母の良心は基督の心を知つて居る。基督は罪人のために苦痛を受け給ふた、我子がその友の密會を自白すれば、近所の青年は社會死である。我子が冤罪を蒙つて友人の爲に獄裡に居るは基督の心に合す、寧ろ冤罪を忍ぶべしとの友情に父母は同意したのである。此子身は獄裡にあれども心には洋々たる處がある。父母ともに良心に於ては晴天白日である。子はまた密會を助けた罪のためにこの刑罰を受けるのは當然であると思つて恨まない。勿論事實は明白になつて殺人の嫌疑は免れた、たゞ白晝にすら女子と密會するは宜からずと說諭せられて放免せられた。

出家した友はドーしたか彼は僧侶に懺悔して平安を得た

が、寧ろ父母に懺悔すべきであつた、彼は寺に入るよりも警察へ入つて自白し、その友を救ふは當然でなかろうか。是れ良心を明にして氣高い人格を作る所以である。

愛する兄弟姉妹よ、恍惚として平安を得るよりは、良心を明白にして苦悶するをまされりとす。吾々の神は美に酔ふ神にあらずして人格の神である。これが基督教の最も尊い一面である。人格的の神とは良心を以て仕へる神である。良心をさまして宗教に入ることは健全であり光榮である。併しこの宗教に入るは六ケ敷い。宗教に入るには良心を晴まして佛の懐に安眠するよりも、良心を覺醒して閻魔の廳に行く覺悟を持たねばならぬ。吾々は朝に夕に審判者たる神を仰いで修養せねばならぬ。かくてこそ吾々は友のために時あつてか寃罪の苦痛を受けることが出來る。併し吾々は神の前に於て深く罪を感ずる。が神は悔改むる者の罪を赦し給ふを忘れてはならぬ。吾々は先づ家庭に於ては何事も胸襟を啓いて語る處がなくてはならぬ。次に一人か二人、否少なくとも三人位の心友を得なければならぬ。この友ありてこそ誤解の多いまた寃罪の多いこの世にあつて慰藉ある生活が出來るのである。かくて互に良心の友を得また友となつて滔々たる狂瀾怒濤の時流に擲んで純潔高尚強健なるものとなつて、社會を濁流の中より救ひ上げ清きものとなすことができるのである。

緑蔭清話

海老名彈正

佛教と天主教

うきつらき世の中の波に打ちなやまされたる苦しき心を安靜ならしめて、慰めいたはるばかりを宗教と心得るは、山を見て高いとばかり、海を見て廣いとばかり思ふと、同じ事にて最も大切なる宗教の要素をみすごして居るといはねばならぬ。淨土眞宗の他力主義又は安心主義も宗教の一要素を鼓吹したものに相違ないが、之ればかりでは到底氣高い有爲の人物はできない。禪宗の修行は全く之と反對であつて、自力主義を高調し、膽力をねり、あきらめを主張するので、果斷の人物をつくりいだすといふ。此種の人々にはたまゝゝ男らしき所もあるが、兎角非倫理的となつて、無鐵砲なやりかたをするも少くない。畢竟するに佛教の極意は神秘の世界に人生無上の樂境を求むるものにて、こゝがよく天主教と似て居るところ、天主教の寺院に入れば、佛教の寺院に入る心地がする。天主教國の人民と佛教國の人民とが不思議にもよく似て居るやうに思はるゝ。日本國とイタリ國とがよく似て居るとは歐米を漫遊した人の評である。

プロテスタント教と儒教

耶蘇キリストを以て宗教家の最も完全なる標本とするなら

ば、宗教は完全に倫理の要素を發揮して居る。その所謂山上の説教の如きは始より終まで倫理思想が一貫して居る。神秘的仰仰を以て居る人は此大説教を以て滿足しない。所が歐洲の宗教改革家はこの倫理的要素に信仰の根本を深うし、至善の神を渇仰し、その限りなき恩惠に浴び浸たされて、誠意正心の修行を積み、身を修め、家を齊へ、國を治め、天下を平にするといふ順序を追うてその信仰を發展せしめた。儒教の訓錬をうけてできあがつた日本武士とプロテスタント教にて養成せられた人民とは、著しく似て居る所がある。天主教を以て自力主義となし、プロテスタント教を以て他力主義と心得るは全くうらはらの見解である。プロテッタント教は根本的に倫理主義にして神秘主義ではない、各自の良心に愛なる神の意思を見出し、眞面目に崇拜の至誠を凝らし、言ふべからざる感謝の熱情をさゝげて、之を遵奉するを旨とする。儒教の所謂終日かしこみつゝしみて誠意正心の工夫を凝らすと比すれば、よくも似て居る。もし夫れその術進を擧くれば、プロテスタント教は先進者にして儒教は後進者である。プロテスタント教は崇嚴なる聖堂の建築よりも健全なる社會の建設に特別の精力を注いで居る。未來の天堂よりも現世の社會に人生の樂境を開拓せんと心懸けで居る。プロテスタント教國に入れば武士の國に入る心地である。言ひ換うれば君子國に入るの氣持がする。公川なる判断と正大なる志望と強健なる意志と價値ある涙とを有する士君子の男女が多い。何んとなくすがゝゝしい。

宗教的良心

良心を以て是非の心とばかり心得るは淺い。良心のなかに天地正大の氣を見出すは一入深く實驗したる識見といはねばならぬ。吾人は良心の中に無上の權威をも見出す。此權威を深く明に認め、よく實驗して自覺するときは、これを以また吾人が宗教心の理想する神そのものゝ聲となさゞるを得ない。吾人は良心を以て直に神そのものと認むることは肯てせざれども、こゝに神の實在を識得せざるを得ない。良心には神の權威そのものが生みつけられて居る。こゝは最も嚴なる神殿である。吾人はこゝに恐懼戰慄する。しかもこゝにまた神の肖像が自覺せらるゝ。爾は吾が愛子、吾が悅ぶ所のものなりとは、神が此良心に語り給ふものと見て差支いあるまい。この清き良心より神を觀るときは、吾人始めて天父を觀る。こゝまで研き磨かなくては良心の本音を聞くこと覺束ない。吾人はキリストの胸底にこの良心を見る。吾人は實にキリストの良心の中に我良心を見て、手の舞ひ足の踏むを知らぬ。しかもキリストの良心が我が良心の中に自覺せるゝに至つては、吾人は之を至樂の境といふを憚からない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜録

今年の夏

海老名みや子

一

本年は家族一同逗子櫻山に避暑致候積りに御坐候。こゝはこれまで二回程參りし地にておなじみもあり、家もいつも同じものを借受申候。養神亭の手前、德富氏別莊を左に折れて、約半町小池の廻りを、少しくうねつて、チヨツト險しい坂をのぼりつめた處、わらブキのさゝやかなる一軒屋、こゝに新らたに世帶を設け候事なれば、ずい分不便も不尠候得共、葉山通ひの馬車の塵もこゝには達せず、世を外の生活、心安き極みに候。此坂一つがとこぼして見度も相成候得共、流石に限りもなく打開いたる景色のこゝろよさは、其勞を補ふて餘りある樣に感ぜられ候。子供等は海水浴の外父の網漁のおともは一つの大なる樂しみにて候。魚屋も來らず野菜もなく夕飯のおかずに大困りの時など、サアこれから一網と、子供等を引つれ出かけ候て、一二時間の後には大ハゼ、小イナ、舌びらめ、さては小だい、せいご、の類七八人の家族にごふにか引ぱり足りる程の獲ものを携げ歸候へば留守居のめん／＼は直にた料理にかゝり數十分の後にはおもはぬ御馳走が出來上り候ていづれも舌づゝみを鳴らし候。又裏のがけより山欵冬をとり來りて時ならぬキヤラブキをこしらへ候など仲／＼に興ある事に候。しかして大キイ女兒等にはお料理洗濯の手傳ひ自から實地練習とも相成之らの樂しみ心外のまうけものにて候。主人も平常渴したる讀書も多少は出來候てうるさいながら子供等の爲おもはぬ運動も致候故たしかに避暑の甲斐ある事を信じ候。私も今年は子供等も、少しは手を放れ候事なれば、兼ての御無音晴らしも此時にこそと樂しみ居候まゝ、皆樣よりも御書玉はらば、端書の御返事位は必ず怠り申さゞる覺悟に御座候。これも夏中の樂しみの一つにかぞへ居候尙彼地に參り候上實況可申上候得共聊か御報旁希望を申上置候早々かしこ

二

元良よね子

避暑などゝ申すと何だか贅澤のように聞ねますけれども、何事を爲るにも生命あつてのものですから、其生命のために身體はなるべく大切に護らねばなりません。それには病氣になつてから醫師よ藥よと騷ぐよりも轉ばぬ前きの杖で、健康の時にその健康を害はぬやう注意することが大切と思ひます。其上で病氣になるのはそれは致方がございません。それで避暑は健康を維持するため確に効があると思ひます。それのみならず子供衆のある方などは海邊へでも轉地なされば子供に水練を習はせることも出來一擧兩得で

ございます。

とかく夏向は食慾が減じ随て身體が衰へるものでございますが、海邊なり山地へなり變つた處へ行て變つた生活を致しますと心氣一轉するのみならず、日夜絶間なく吸つてゐる新鮮な空氣が、山海の珍味にもまさつた大御馳走であり。其上海濱ならば、潮浴だの散歩だので、すき切つた胃嚢へ執りたてのぴん／＼したお魚などつめ込みますから身體は中々衰へる餘地がございませんので、却て一年中の疲勞は僅か二三週間乃至四五週間の保養のため全く除去られ、自ら身神爽快を感じるやうになります。其で秋になつて常の業に復つたとき 何となくもの新しいやうな心地がして愉快に仕事が出來隨て捗もゆきます。

私共では十四五年以來毎年大抵八月中位、極々平民的に轉地する事にして居りました。子供本位ですからいつも海邊、場所は鎌倉 逗子、葉山などですが、近來は鎌倉ばかりでございます。そのお蔭か子供は皆々壯健で、めつたに病氣に爲つた事はございません。私も子供の手離れません時分は通して一緒に出かけました。又これが年中の一番のたのしみでしたから、精々用事を繰り上げて出ることにして居りましたけれども、此頃は子供も手がはなれ、又留守の都合などもありまして通しては參りません。

今年はどう致しますかまだ極めて居りません。子供も追々大供になつて來ましたので何處でも親のつれて行く處へ默つて行くといふ譯にまゐらず、二男は中學校の水泳部に參るといひ、又山も良い、箱根に行きたいとか日光が見度いとかいふ者もございます。何れ何とか極めてあたら夏を無爲に過さないやうにしたいと思つて居ります。今一つ申したい事は避暑といふと箱根か伊香保あたりの温泉宿にでも泊り込んで毎日寢たり食べたりばかり(無論お湯には何度もはいりますが)して居る事のやうに思ふ人がまゝありますが、あれは感心出來ません。又トランプ其他の遊戯に深更まで起て騒ぐのもよくないと思ひます。避暑とか轉地とかいふものゝ目的を場所と仕事とを變るといふことにして なまけるといふ考は全く取り去らねばならぬと思ひます。

海水浴に就て

金子魁一

今年ももう夏になりまして、暑中休暇は日一日と近くなる、試驗といふ難所を越せば前に一年中最も愉快な時を待つ事が出來るのであります。故郷の樂土に歸りて父母の膝下に樂しく日を送る人もあるでせう。又は平常身體の健康でない人は何地かへ保養に出でたり。或は夏期學校に入りて精神の健全をはかる方もありませう。何づれにせよ夏季は冬季と異りて人々が蟄居してる時ではなくして、盛に活動しようとする季であります。そうして多くの人の旅行を企てたり、滯在しようと思ふ所は、約言すれば、山と海とであります。

古より智者は山を好み仁者は海を喜ぶとか申して居り、また秀靈の天地は英雄豪傑を生むなどとも言はれて居ります。そうして見れば自然風土の人間に及ぼす影響は、精神的にも決して少くないのであります。而して夏季を利用して轉地をするといふ事は、啻に身體鍛錬に益ある

のみにあらで、精神修養の上に偉大なる効果あるものであります。我國に於て人々が海水浴に行くといふ事實は極めて新しい事でありまして、溫泉などに比しては其の歷史が遙か若いのであります。故に主として海水浴に就て御話をしようと思ふのであります。

　海水浴は如何なる疾病に効驗あるかと申すと、第一に肺病、氣管支答兒の慢性になつたもの等で約言すれば諸般の呼吸器病に有効であります。其他身體諸部の結核性の疾病や俗に申すルイレキの如き一般薄弱な身體で、容易に風邪にかゝり易い素因ある人や、家族の中に遺傳病者ある時なども、海岸に滯在して居るといふ事は、身體の抵抗力を高め、病を未然に豫防する事に有益です。彼の學生病といはれて居る神經衰弱症の如き、又諸般の重い疾患の回復期などには最も適したる方法として、海水浴を勸告するのであります。

海水浴は何故にかゝる大効あると申せば、海水は食鹽や其他種々の化學的成分を有し之等が皮膚を刺激して、其の抵抗力を高むるといふ事も一部分でありますが。尙それ以上に大切なるは海上の空氣であります。第一海上の空氣は最も純粹でありまして、東京市中では一立方迷中に二萬から四萬位のバクテリアが居りますが、海面では殊に少く殆絶無といひ居る事もあります。一寸御斷り申して置きます。こんなに多くのバクテリヤが居つても、病原となるものは少なく且又人體の抵抗力によりて病に冒かさるゝ事のないのであります。

　それから海岸では溫度に大差ない。之れが衛生上大なる利益ある事であります。晝は陸より海の方に、夜は海より陸の方に絶ねず軟風が吹いて居るため氣溫が何時も調節されて居ります。それに又濕度が程よくなつて居るために、炎熱燒くが如きも、日中で地上に來る熱を途中で濕氣が吸いとるため、甚しく熱せらるゝ事がない。夜分になると反對に濕氣が熱を放ちまして空氣を溫めて、自分は奇麗なる露となりて草葉の上に橫はるのであります。之等が健全な身體を練り上ぐる所以で

あります。世間では海岸にはオゾンの氣が發生してバクテリアを殺す作用があると申す人もありますが、オゾンそれ自身に殺菌作用あるとは確かでありましても、海岸に存するオゾンの含量は實に僅少でありまして、かゝる作用が充分行はれて居るとは思ひないのであります。但しオゾンを含んで居る程の場所なれば其の空氣は純粹であることの證明にはなります。それで甚しく衰弱した人や、心臟の惡い人、脚氣患者などは海水に浴するとは寧ろ避けて、海岸を散歩して、波濤の起伏する邊に立ちて海氣に接するだけでも、大に利益を見ることが出來ます。況んや海邊なれば、新鮮なる魚類の供給多く身體の營養を高むるを得るの便もあります。

凡て規律ある生活を營むことは人體の健康を維持するに於て重大な事であります。故に海水浴に行つても一定の規律を守る必要あります。早天怒濤岩を嚙む邊に立ちて、二三の友と共に。祈禱を捧ぐることは如何に崇高の信念を與へる事でせう。之はどうしても怠らぬ事にして、又休暇中でも少しく勉學したいと思はるゝならば、朝夕の涼しい時を撰ぶがよろしい。海水に浴するのは午前十時十一時。午後二時―四時位にして。午食後は靜かに休息する方がよいのです。凡て運動が多い時は、夜の睡眠時間も多くしなければなりません。

凡ての運動の中で游泳程、身體の各部をよく動かすものはない。之れによりて身體四肢を平等に發達せしむることを得るのであります。他の運動は何づれも上肢か下肢かの何かに偏して居るので圓滿な發達は期することと難いのであります。

殊に游泳は、脊推の側彎症に功があります。これは脊推が左右の方面に歪んで居りまして、略S狀になつて居るを申します。西洋では青年の女子に、此の病を多く見るそうでありますが、我國でも多分そうであらうと思はれます。今日の如く和服を用ゐて居るから、外觀上何等の變化も認むること出來ませんけれども、一般に身の丈低く、四肢との平均を失して餘り見よい狀ではありません。況して洋服を着る樣になれば實に見苦しいであらうと思はれます。游泳は、之の疾患に大功あるので西洋では大に子女の游泳を奬勵して居るそうであります。

病める友の疑問に答ふる書

小日向生

拜復如仰時候柄雨天勝ちにて、心氣何となく晴れやらぬ昨日今日、兎角物思ひに沈みたまふとの御書深く御同情申上候。

さるにても御病氣に格別の御障りなく專心御療養につとめられ候段、何よりの御仕合に存上候。此上とも可成呑氣に可成氣長に御靜養の程奉希望候。

偖豫て大兄の一大疑問一大苦悶の事件に關し、近來又々御苦慮中之由、如何にして此胸中の暗雲を掃ふべきか、骨も身も碎けん斗りの難關を斬り拔けん道あらば教へよとの仰せ、何事にも私情を拋ち天意を中心として、處置せんことを理想とせらるる大兄に取つては、道は必ず存せんも只情緒纒綿左思右考容易に斷案を下し難き御衷情、如何にも御悲痛の極と奉察候。併し世には斯る實際問題に逢着

して煩悶懊惱の苦境に呻吟しつつある人々も少からざるべく、又一方には此人生問題に對して對岸の火災視する冷淡の徒も可有と存候得者、此際有理明快の解釋をなさるるは獨り＊兄に取つての幸福なるのみならず、他を益することとまた鮮少ならざることを信じ申候。依て聊か左に鄙見陳述御參考に供し申すべく候。

「妙齡の處女と約婚したる後、不治の病に冒かされたる者が破約するが至當なるか、但しは結婚を斷行すべきか」「又不治の病に罹りたることを約婚の婦人に明らか樣に告げ知らすべきか但しは秘して彼の女の驚愕と苦悶とを免れしむべきか」此等は單純なる問題の如くにして實は複雜に候。其病氣の輕重、對手婦人の性質によりて多少其處置を異にすべきものと存じ候。

例へば癩病、肺患の如き不治の疾病に罹れる者が自他の幸福のため、子孫の禍害を避くるために結婚すべきにあらざるは世の既に認むる所、深き戀愛の存する處には山も淵も障害たらず、不治の病何の厭うことあらんと論ずる人もあれど、こは餘りに戀愛を極端に贊歌したるものにて言ふまでもなく大兄の與みしたまはざる所なるは小生疾に了得致候。

刻下大兄が心を惱ましたまへる一つは、昨春櫻花滿都の客を醉はしむるの時茅出度一生を契りし可憐の彼女に、希望春の海の如き彼の女の胸中に、紅の血を咯きし今日の大兄が病狀を明ら樣に告げて、明暗直に處を異にする世にも可恐しき悲報を投ずべきか、將た千萬無量の彼の女の苦痛を豫想して秘し置くべきかと云ふ點にありと存候。愚案によれば明斷果決其病氣の實狀を報じ越し大兄の衷情至誠を彼の女の心情に訴へらるる事に候。婦人の眞情は斯る時にこそ發揮致すもの、弱しと見ゆる女性の勇ましくなるは危急の場合にあり、彼の女にして若し一片耿々の誠あらば如何で將來の良人の不幸を見過すべきや、さらば彼の女の煩悶苦慮は必ず忠信至誠の發揮となるべく候へば信じて御打明けありたし、これ大兄の心を安ふし彼の女を救ふ所以と信じ申候。

更に第二の難問は此際寧ろ斷然破約して彼の女の幸福を完ふせしめ、我れと我が子孫の禍を薄ふせんかと云ふ點にありと察せられ候。さなり是れ實に人生最も苦るしき問題の一つに候。若し人生幸福の泉源たるべき結婚が我が生命を短うし妻子を悲運に泣かしむる媒ともならば、千萬の情誼を排して獨身生活を送るは心ある人の執るべき正道と存候。大兄の心を傷めらるるも定めて其邊に思ひ及ばれし故なるべく、特に一念花の如き彼の女の將來に及びたまふ時、腸寸斷の感あるを察申候。

併し今に於て破約の問題を決したまうは如何あるべき、咯血は眞に恐るべく候も、必ずしも絕望すべき重體にあらずと其道の大家に聞及候。中には殆んど全快したる人も有之候へば　此際何よりも先づ心靜に氣平かに療養に力を致されん事を切望に堪へず。かくて到底恢復の望みなしとあらば結婚を中止せらるること已むを得ざるべきか、兎も角も大兄の御發病によりて獨り自から安んずるのみならず、一生の愛する契友をして悔ひなき處置に出づる樣御注意あり度幾重にも希望いたし候。願くば海の風と磯の松と大兄が慰勵と新元氣の作たらん事を不宜。

彙報

●東京婦人會講演會　本月十一日(日曜)午後一時より本郷會堂にて講演會を開き海老名彈正氏及安井哲子女史の講演ある筈。

●心理學通俗講話會　本月三日(土曜日)午後二時より神田三崎町浸禮敎會に於て第三回講話會開催の筈演題及講演者は左の如し。

一、無言の敎育　文學士　野上俊夫氏

二、眼の誤と實際上の應用　文學士　上野陽一氏

三、意志の修養　文學博士　元良勇次郎氏

●基督敎女子青年會夏期講習會

會期、七月十三日(火)より廿日(火)迄

會場、東京府下荏原郡羽田町字穴守要館

講師、井深梶之助氏　井深花子夫人

服部綾雄氏　柏井園氏

綱島佳吉氏　植村正久氏

鵜崎庚午郎氏　安井哲子女史

松永文雄氏　笹尾粂太郎氏

宮川絲子女史　平岩愃保氏

元田作之進氏

題目、聖書研究、青年會事業研究、各種講演、祈禱會、懇親會、質問會、茶話會等、

費用、講習料金五拾錢

滞在費金九拾五錢位(一日分)

尙ほ詳細は麴町區土手三番町十五番地事務局宛參錢切手若くは往復葉書にて照會すべしとの事。

編輯だより

◎鬱陶しかりし梅雨漸く晴れて、夏は一層暑く相成申候。本月中には學生諸子もやがて試驗を終へられて、待ちに待ちたる夏休を迎へ樂しき故鄕に向はれ、或に海に或は山に趣味ある旅行も實行せらるなるべく、其他さりぐ種々の計畫もあらるゝこと存候。

◎本誌は玆に見る所あり本號を以て夏季號となし、學生たる諸姉妹の如何に此永き夏休を過さんかに就て、聊か參考に資たるとを得るつもりに候。

◎人生には休業なし、夏休も方面の轉換にすぎず。要は如何に之を最良く利用すべきかにありと存候。讀者諸君の上に天恩何時も豊にして、最も樂しくして、最も有益なる夏休のあらんとを祈り候。

◎本號に於ては主として學生として夏休に就て老申候、次號に於ては母として主婦としての夏休觀を紹介申度候。讀者精姉の御經驗に付て御通信あらんとを希望致候。次號は更に淸新の詩趣ある材料を豊富にして無聊なる夏休中の一珍客と致度存居候。

◎本月末より海老名氏一家族は逗子櫻山に、元良夫人は御子様方と多分鎌倉に、松井夫人は北海道にそれぐ避暑又は旅行せらるゝ由に候。

◎本誌事務所は今般小石川區小日向臺町三丁目九十二番地に移轉致候。本誌に關する御用向は一切同所宛に御願申候。

◎次號原稿〆切は本月十五日のと。早々

本誌定價｛一部金拾錢(郵税ナシ)◎六部半年分前金六十錢(郵税ナシ)◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢(郵税ナシ)

外國行定價｛壹部金拾四錢(郵税ナシ)◎半年分前金八拾錢(郵税ナシ)一ヶ年分前金壹圓六拾錢(郵税ナシ)

廣告料

一行廿七字詰	四分ノ一頁	半頁	一頁	内表紙一二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金十圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●郵券代用に一割增の計算て御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛に願上候

東京市小石川區小日向臺町三丁目九十二番地

新人社事務所

振替貯金口座一四〇〇五

明治四十二年六月二十八日印刷
明治四十二年七月　一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區材町四十三番地　海老名彈正

印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九二　野口末彥

發行所　東京府下豊島郡巢鴨村大字巢鴨六百六十一番地　新人社

印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所

院長診察月、水、木、金、午前、松田醫學士診察火、土、午前、窮者施診火、木、午前、入院診斷後隨時應需、

松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局(八八八病院用 八九八私宅用)

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地(御茶水橋畔)

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎村濱(停車場所在)

電話茅ヶ崎(二一番)

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、

院長診察土曜日午後〇同時窮者施診、

副長診察月、火、水、木、金、土、午前

入院診斷後隨時應需、

Digitized by Google

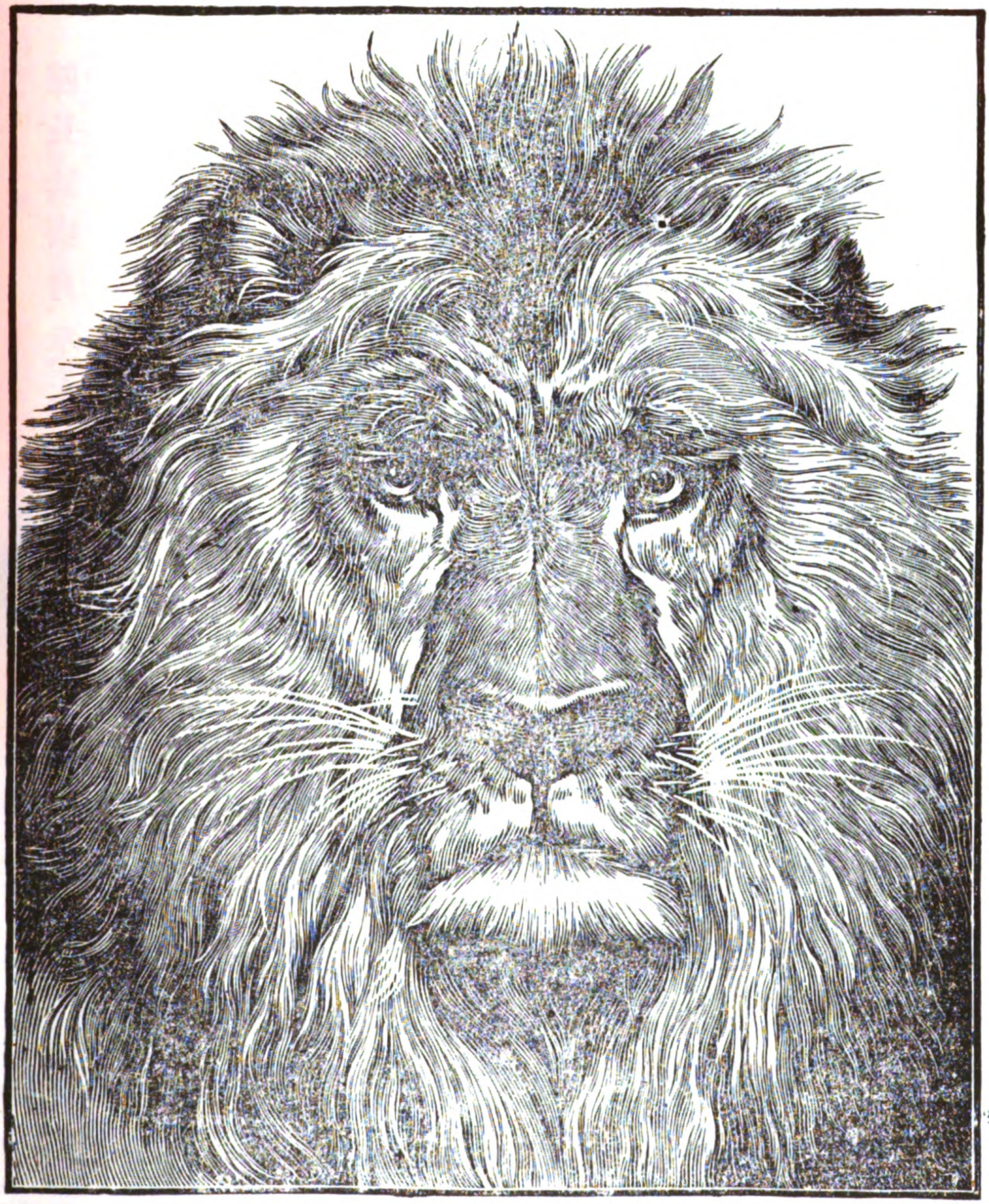
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

每月一回一日發行

ライオン歯磨



發賣元　東京市神田柳原川岸　小林富次郎

明治四十二年七月一日發行第壹巻第四號